

穴吹夏次物語

日々是前進



構成・画 青柳 裕介



穴吹夏次物語

日々は前進

日々は前進

穴吹夏次物語

構成・画 青柳 裕介

日夕是前進

穴吹夏次物語

昭和二十年
穴吹夏次は
郷里高松に復員した

目次

前編（昭和20年～昭和35年）…… P.3～P.85
—草創期から株式会社設立まで—
• 穴吹夏次復員
• 木造住宅の建て売り業をスタート
• 森口隆との出会い
• 木造から鉄筋へ（四国貯蓄ビルの建設）

後編（昭和35年～平成元年）…… P.86～P.173
—株式会社設立から現本社ビル完成まで—
• 株式会社穴吹工務店に法人改組
• 近代的会社経営への脱皮
• ボーリング熱中時代
• 錦鯉飼育を始めた頃の思い出
• 現本社（アナブキ・インテリジェントビル）竣工



夏次は高松のあまりの変わりように立ち尽くした

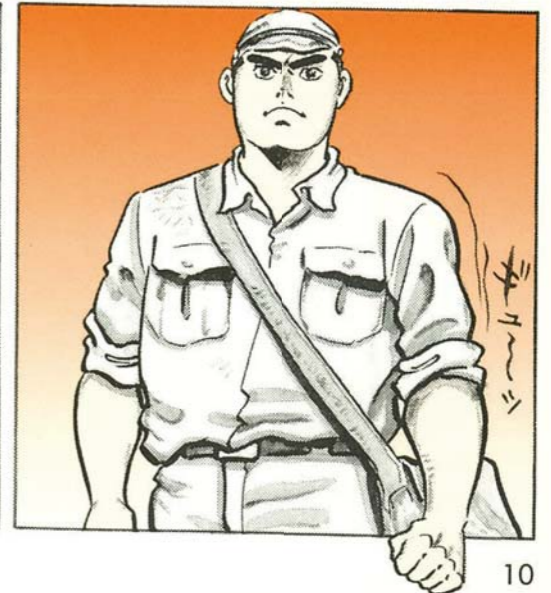
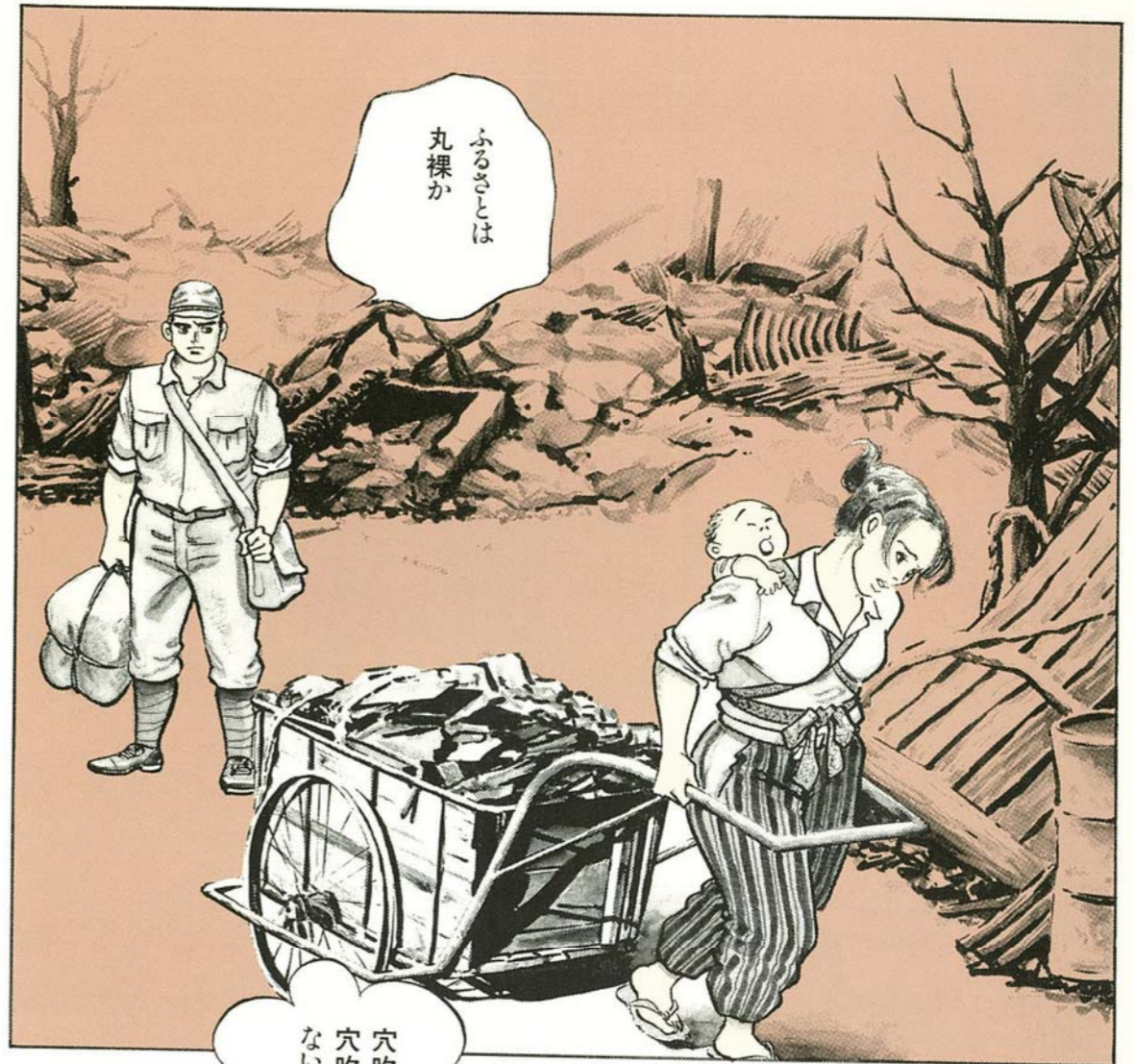


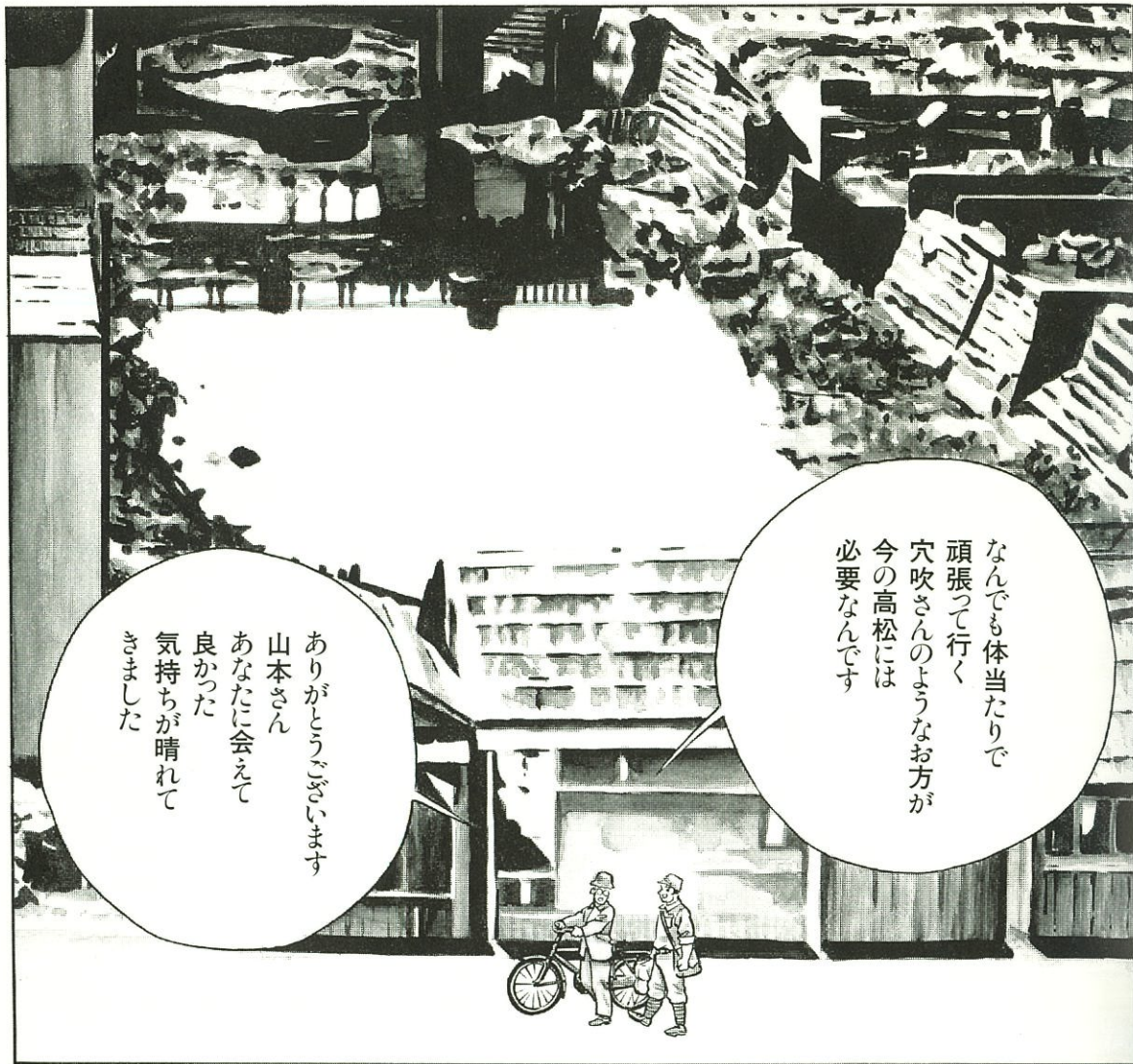
あの森が
高松の
象徴だった
栗林公園か！



埠頭から歩いて
この方向なら
栗林……







なんでも体当たりで
頑張つて行く
穴吹さんのようなお方が
今の高松には
必要なんです

ありがとうございます
山本さん
あなたに会えて
良かった
気持ちが悪くて
きました



ご両親はさぞ
お喜びでしょう
少し休まれたら
役場の方へも
立ち寄つて
下さい

何かお役に立てるかも
しれません

ありがとうございます
さうです



じゃ
私は
ここで



あなたの力で
高松を

甦よみがえらして
下さい

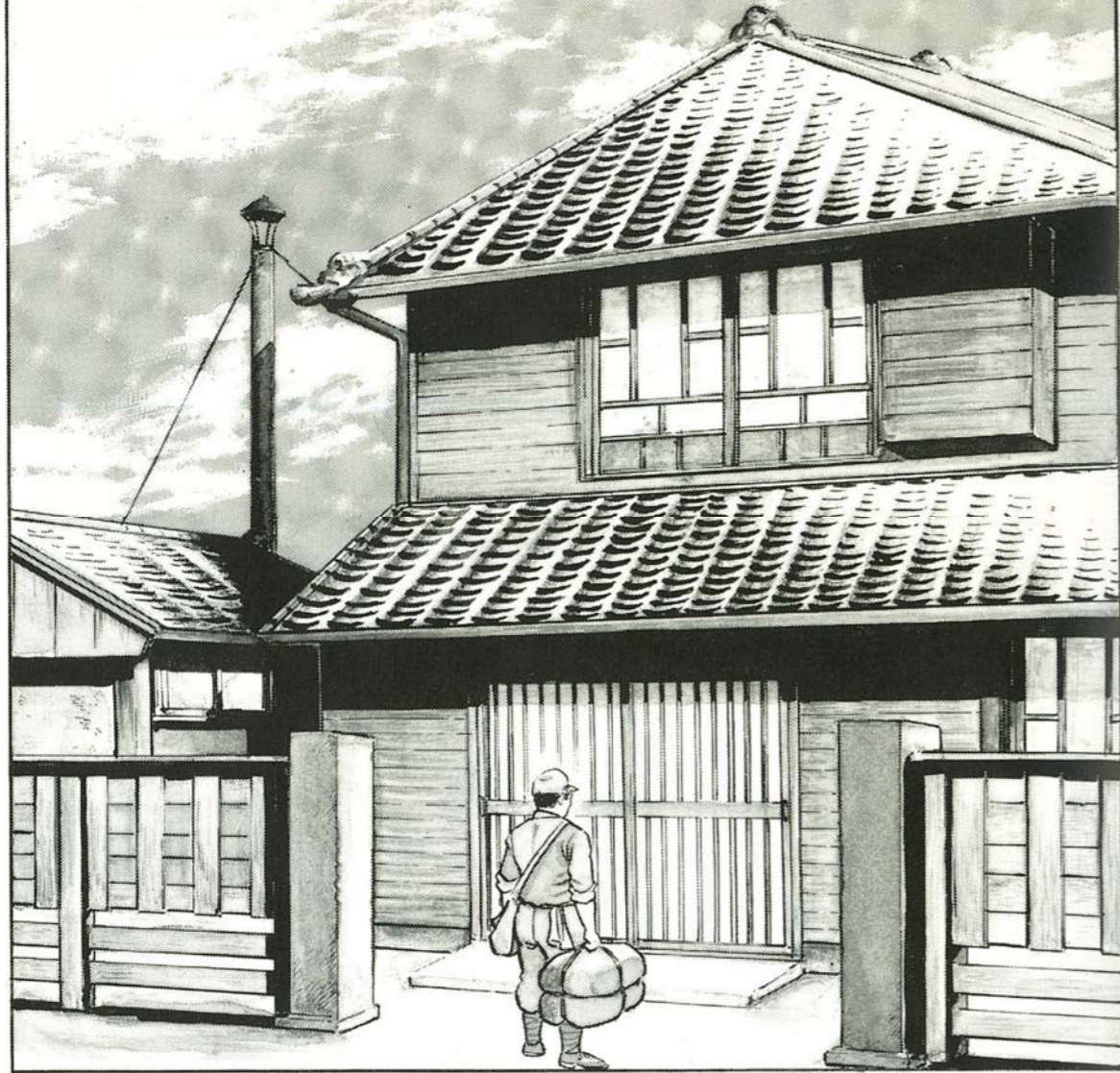


ハ！強気の
夏次さんらしい

性格は
変わつと
らんなあ



しかし
この様子じゃ
とても
休んでは
おられん
ようです



よしやあ
やるぞオ
働くぞオ

家だ
今の高松に
必要なものは

人々が
安心して住める
家だ



戦争で家を
無くした人々に
俺は誠心誠意を
込めて
家を建てよう

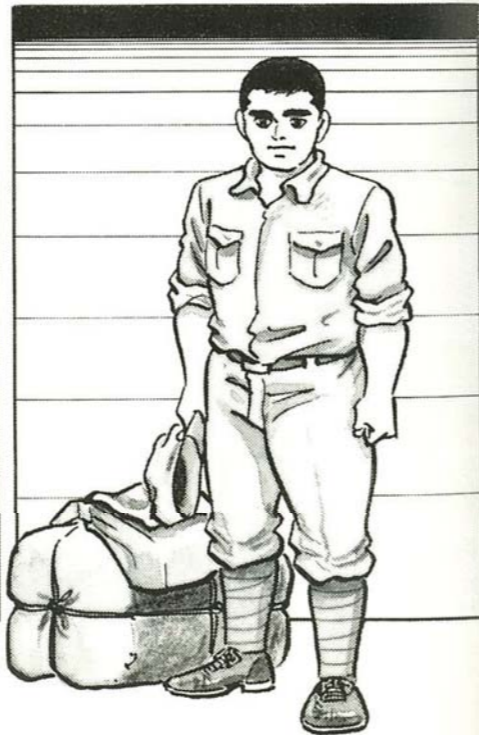
復興は
住まいにあり

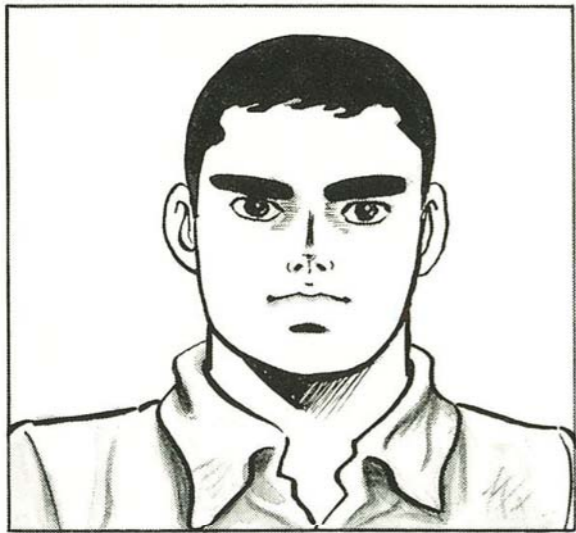


穴吹
夏次
ただ今
還りました



父さん
母さん





父さんの
せわしなさは
ちっとも変わってらんで
しょう



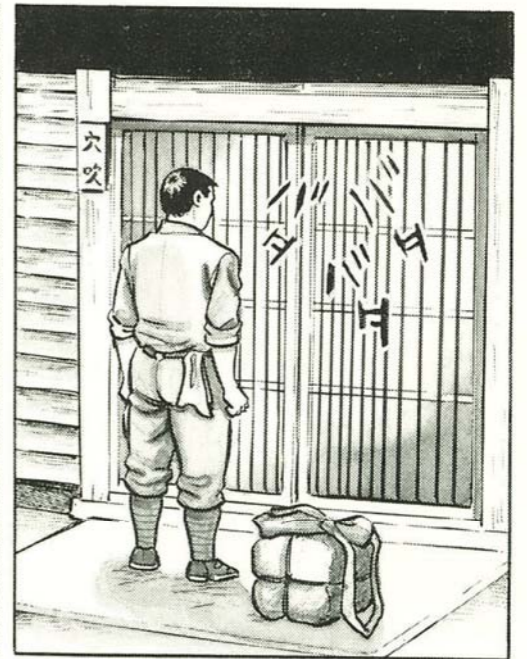
はよう上かれ
フロ入れ
出たら
メシだ

ハイ



夏次

母さん
ただ今
還りました



夏次



父さん

夏次



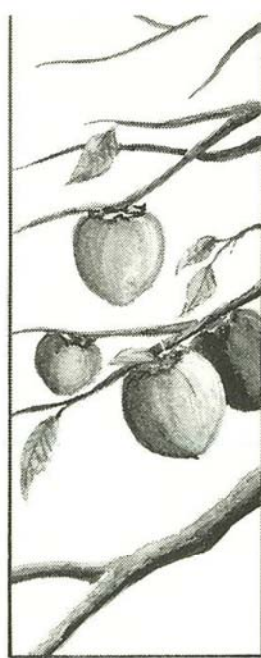
おかえり

よう
無事で

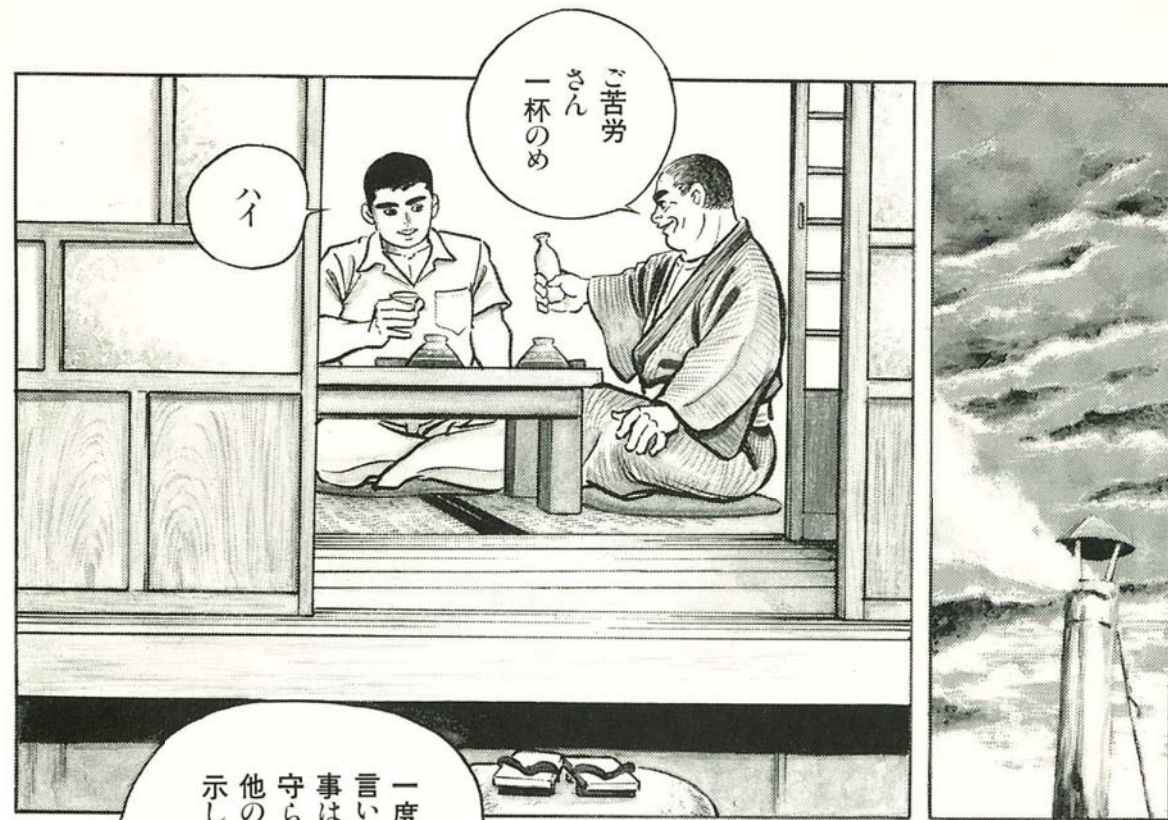




ハイ
おきした

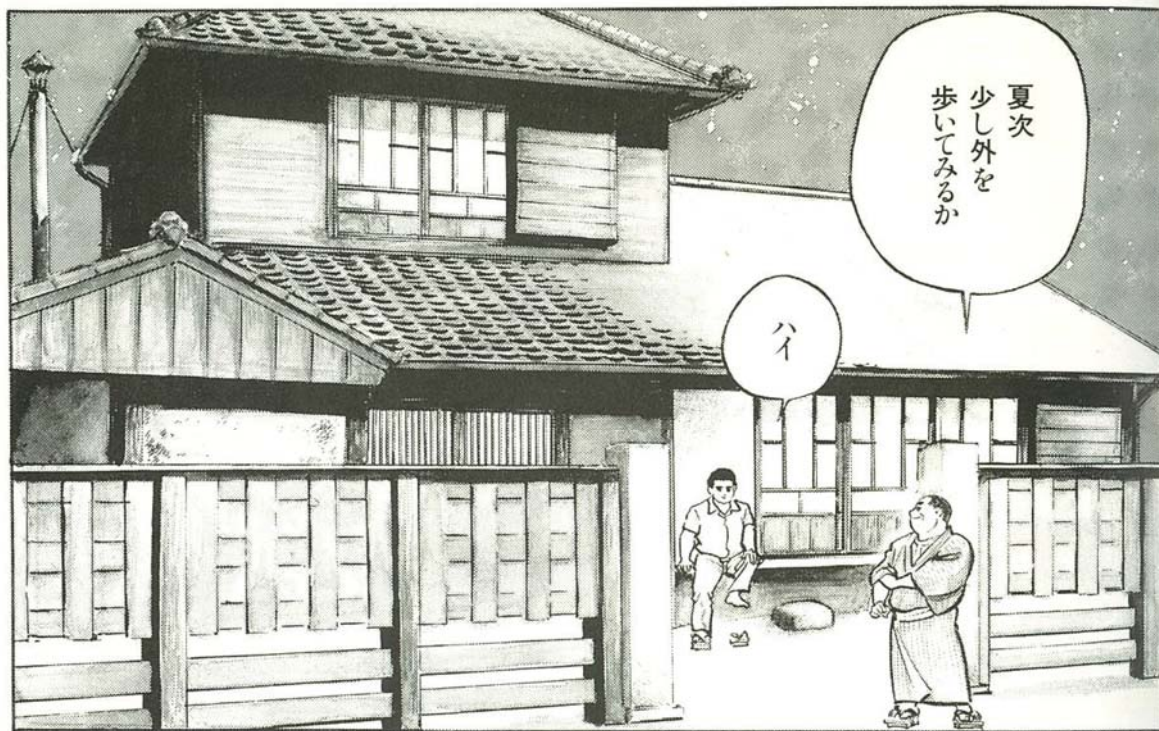


じゃあ
僕も父さん
を見習います



ご苦労
さん
一杯のめ

ハイ



夏次
少し外を
歩いてみるか

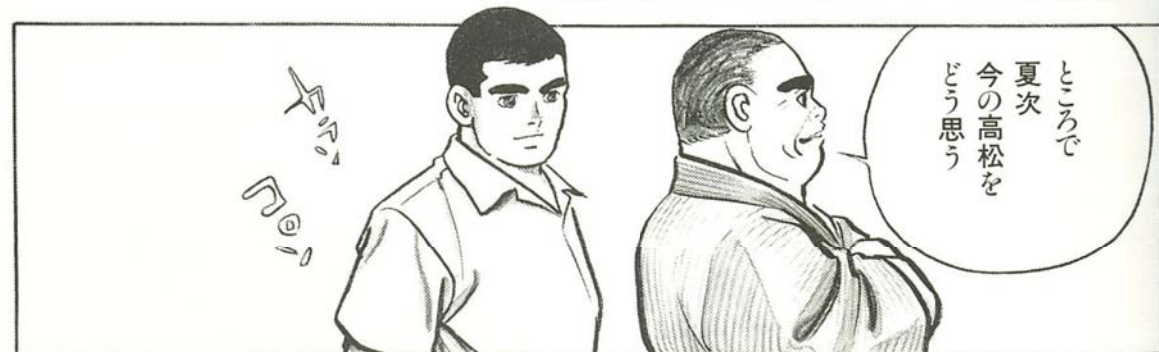
ハイ



一度
言い放った
事は
守らんと
他の職人に
示しがかん

そう
なのよ

父さんは
今も
禁酒ですか



ところで
夏次
今の高松を
どう思う

ハイ



夏次は
決めた事は
きちんと実行する
父を

尊敬
していた



食は農家や漁師さんに
頼んで食物を増産
してもらって
衣は古着で寒さは
しのげると思いますが

やはり住居
あつての
暮らしが基本に
なると思います

立ち直るためには
まず衣・食・住の
めどが欲しいと思っ
ます



私は明日から
誰よりもたくさん
家を建てよう
と思っています

しかし
建てたくても
建てられない人が
ほとんどだぞ

ええ
今は夢かも
しれませんが
まず家を建てて
それを販売するとい
うやり方を考えています

注文を受ける前に
家を建てて
それを売るとい
うのか
そんなのがうま
いくか??

研究し
一日も早く
まず
一軒目を
建てます



ウツク
ウツク
ウツク



親方
そっくりや

ほんま穴吹さんは
せわしない



先手必勝
何事も一番が
ええです



ゲ ゲ

というわけで
これから書類の
届出の事など
よろしく教えて
下さい



まず土地を
買い
家を
建てて売る
人より先をいきます



資金が
いるな
ハイ
投資が
必要です



よし
わかった

その意気で
やれ

ハイ



土地
家を一つ
処分して
資金を作るつもり
です

高松市川添町下田井
(現・下田井町)

その頃穴吹家は
二軒の家を下田井に
持っていた



建て
売りは
都会風の商売や
高松辺りで
成功
する
やろか



そこの
しつ
見通しは

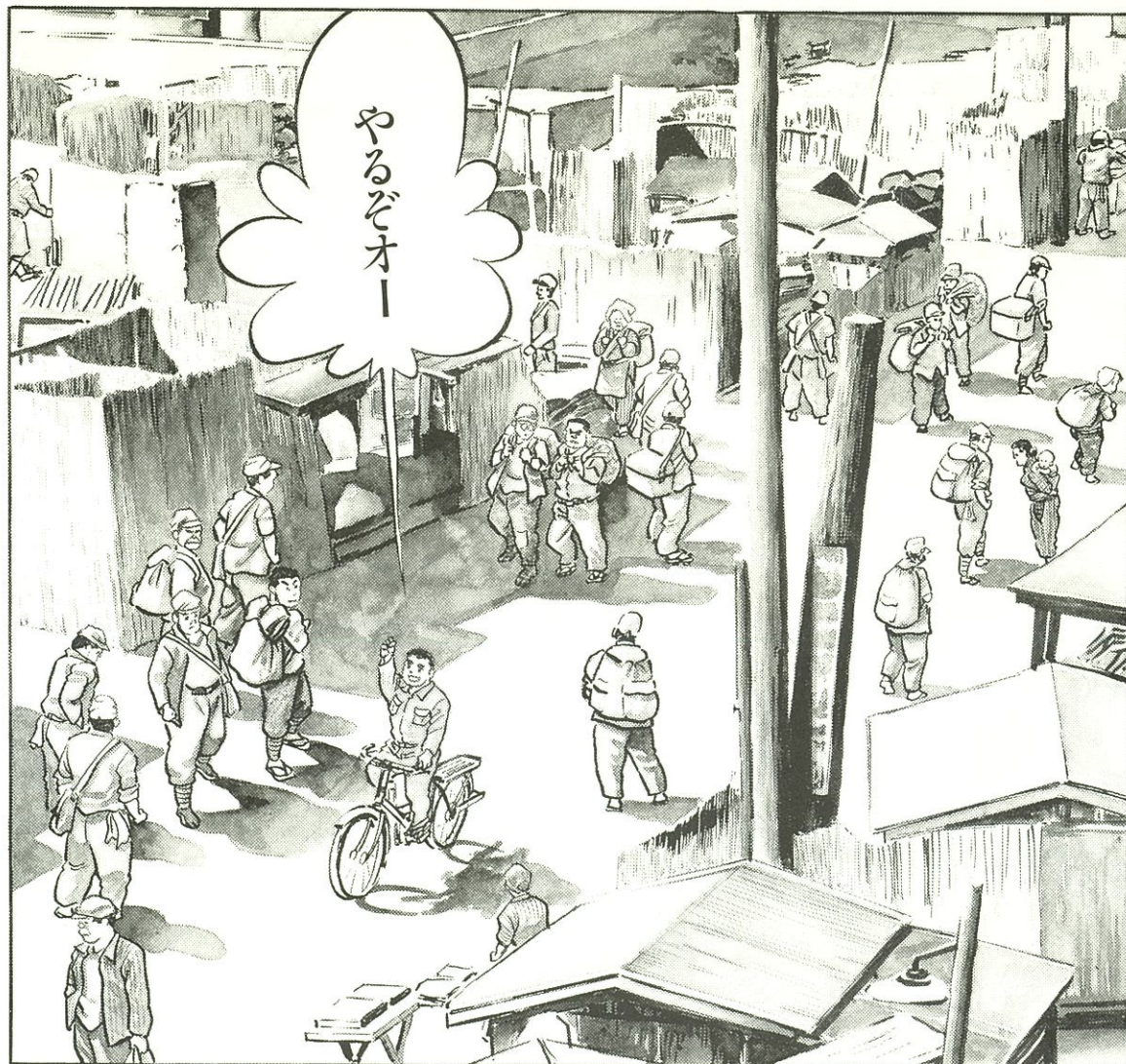


では
よろしく
お願い
します

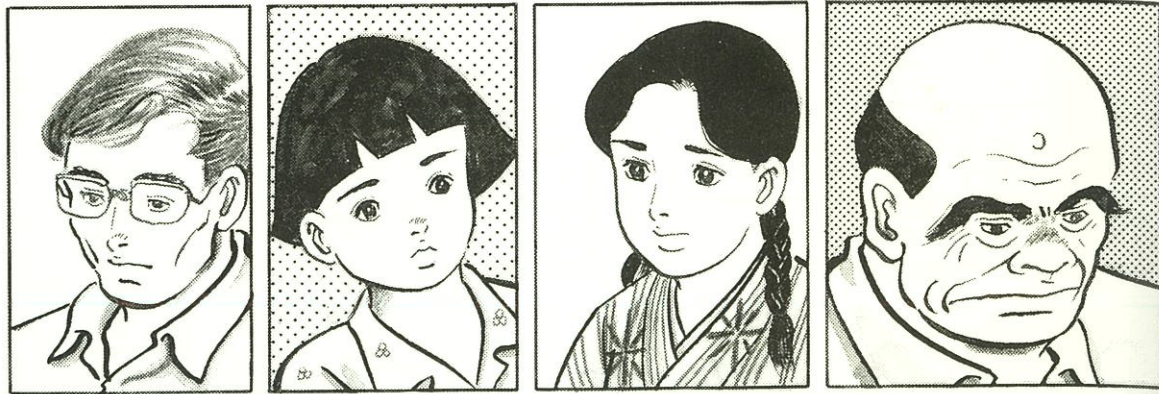
公気力の
かたまりの
ような人だ

ありや
こりや
すみま
せん

けつうですが
まだ始業前です
明日からは
八時半に来て下さいね



やるぞオー



やったらええ

鉄砲玉が当たっても
死なん夏次さんの事や
神様も見捨てんやろ



いやー
実際あれには
肝をつぶした

突撃ー

おお
その話
聞きたかった
んや
どうなったんや



戦災で
事情は
変わったと思う

地方でも大量の
住宅が必要な時や
からこそ
請負に変わる
商法が
歓迎されるはずや



この時代や
壁は厚いけど

力の限り
頑張つてみる

資金
繰りは
大丈夫やろか



おい！みんな見てくれ
聞いてくれ
穴吹は不死身や
ど頭にまともに弾丸
くらったくせに

なんと
その弾丸は
鉄カブト一周して
後へ抜けた！

山田よせ

なんだと
まらか



ほんとや
こんな事が実際に
あるんだな

運の
強い
やっちゃ

奇跡や



これが証拠だ



うおお

傷は浅い
しつかりしろ

穴吹ーい

穴吹 お前
頭うちぬかれて
生きているのか

こりや
あかん

まともに
肩間ぶちぬけ
とる



夏次は早速
土地買入に
奔走した



穴吹さん
えらい所に
目を付けましたね
しかし
うまく回転する
ものですか



戦場では
運・不運が
紙一重や

中国でも
南方でも
俺は幸運の
神に
救われた



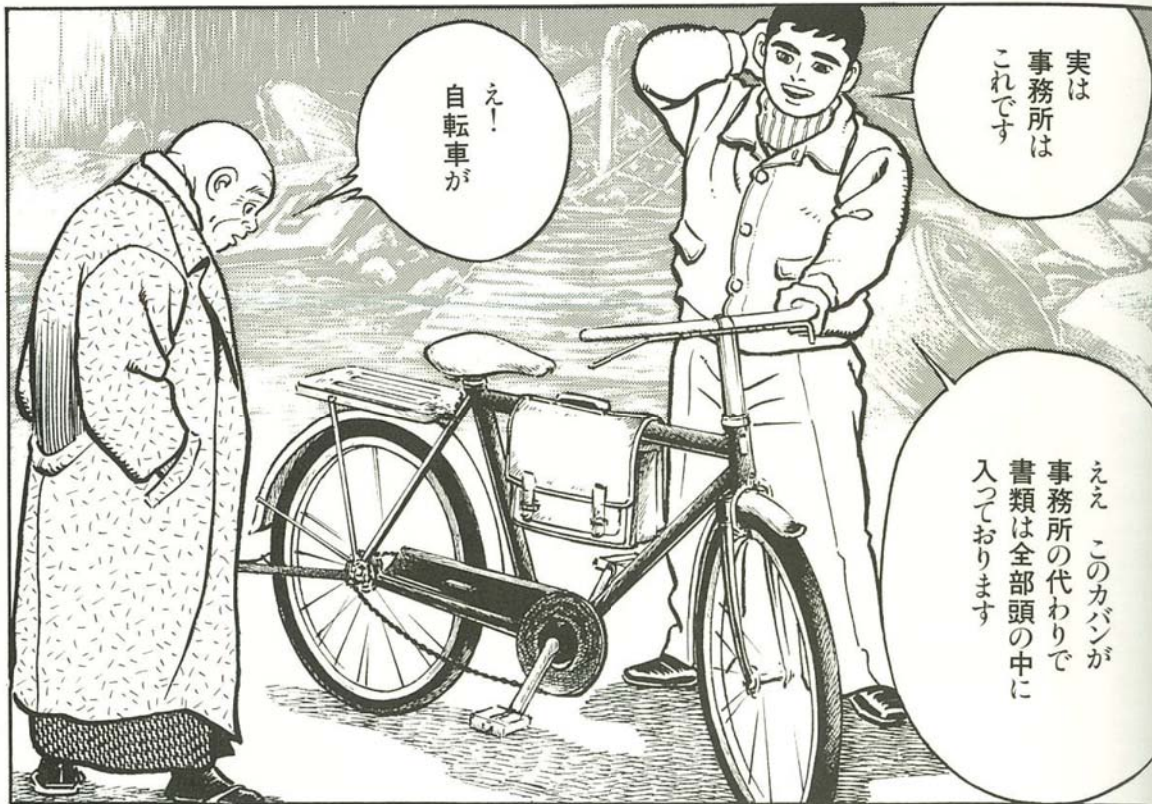
戦争で前とは何もかも
価値観が違う
今をよしとするなら

思い切って
勝負に
出た方がええ

家を処分して
資金を作る
後は夏次さんの
才覚しだいや

ありがとう
ござります

やったらええ



実は
事務所は
これです

えー！
自転車
が

ええ このカバンが
事務所の代わりで
書類は全部頭の中
に入っております



時勢に
乗った方法
です
十分採算が
見込めます

ブルル
冷え込みが
きつう
なつて
きましたなあ



こりや驚いた
よくそれで
大きな商売を
やつて
おります

これで市内を
駆け巡って家を
建て続ける
つもりです



できるだけ
よい条件
で土地を
買わせて
もらいますので
是非譲つて
下さい

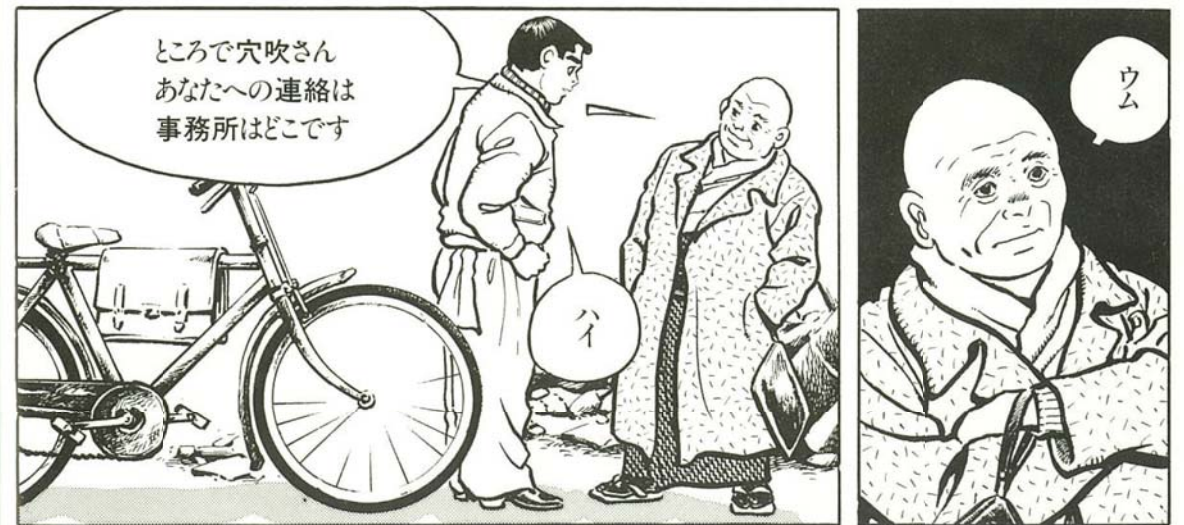
……
建て
売りねえ



……
すごい馬力だ

おー
冷えると
思ったら
みぞれがきた

戦災で
家をなくした
人は
つらからう



ところで穴吹さん
あなたへの連絡は
事務所はどこです

ウム

穴吹工務店の
記念すべき
建て売り建築
第一号が
着工された

そこ
もう少し
上げて

信用しましょう
すぐお建て
下さる

ありがとうございます
ありがとうございます



おやっさん
この方がこの家を
買いたいと
言うつもりですけど

ありがとうございます
ご存じます
しかし何分
まだ
建築中で
売り物には



いや 土台を
見せていただいて
十分満足
するもの
です

仕上りは
信用します
ぜひ

ありがとうございます
ご存じます



穴吹さん
順調
ですね

これは
地主さん



材料
どうや

量は
なんとか
しかし質が

夏次



材木は高知へ直接
調達に行くつもりです

やむを得ん
戦争中も
ひどかった



信頼できる
人物が欲しいのですが
……

いざとなると

しかし
急がんと
悔やむぞ
心当たりは
ないのか

それはいい
しかし
どんどん
増える
現場を
誰が見る

それなんです



例の土地の事ですが
あなたより高額で
買いたいという者も
きておりますが

私は
あなただけを
信用しています
必要な時は
御越し下さい

すみません
必ず買わせて
もらいますので
今少し
お待ち下さい

夏次
確かに世の中
動いとる

ひとつ
でたホイの
よさほいの
ホイ

お前一人やったら
負けるぞ
早く片腕になしてくれ
人をさかせ



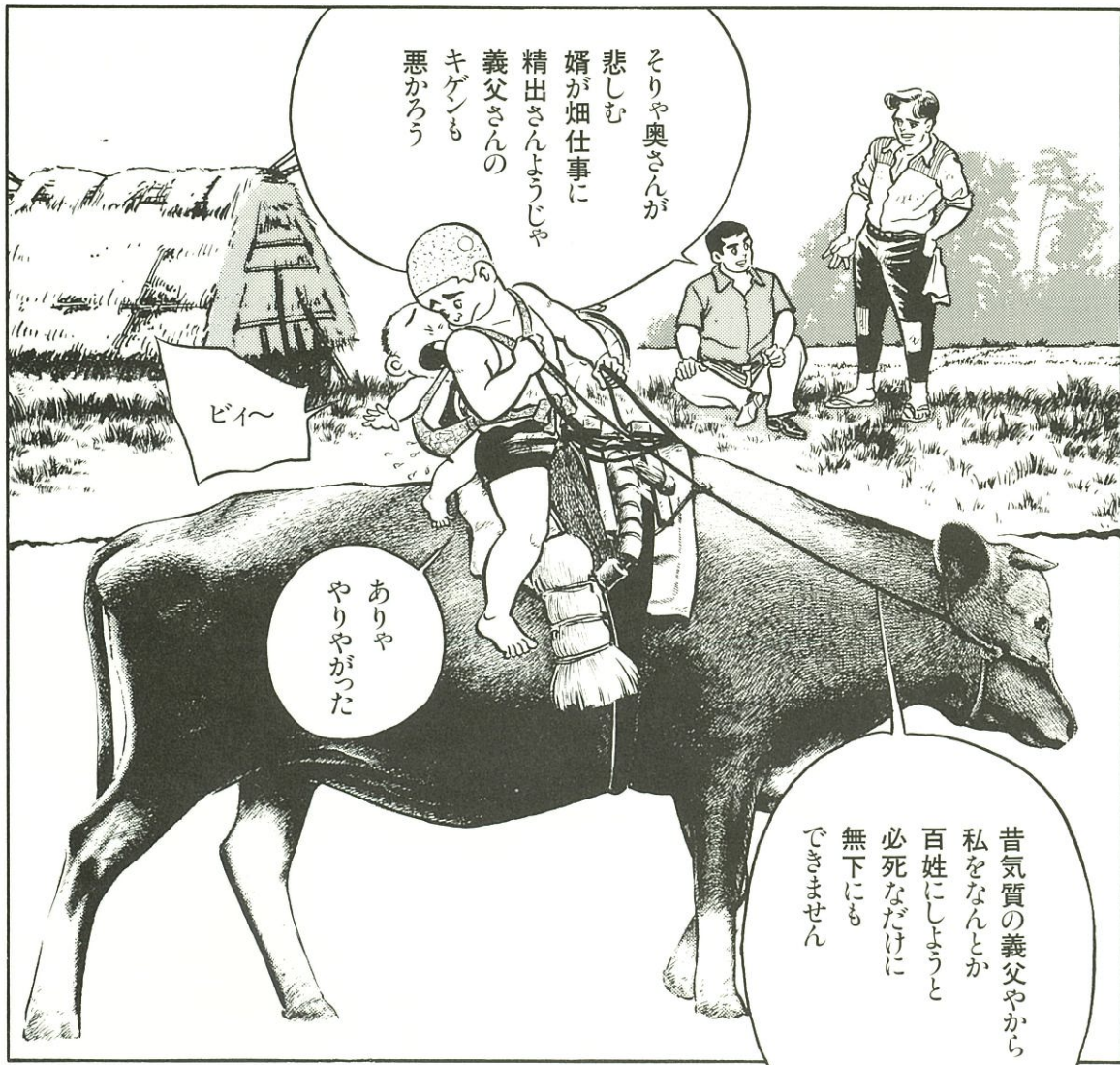
ハイ



もともと
百姓には
向かん
性格と体力な
もんで

それが
まだまだです

すつかり土地に
なじんだ
ようやね

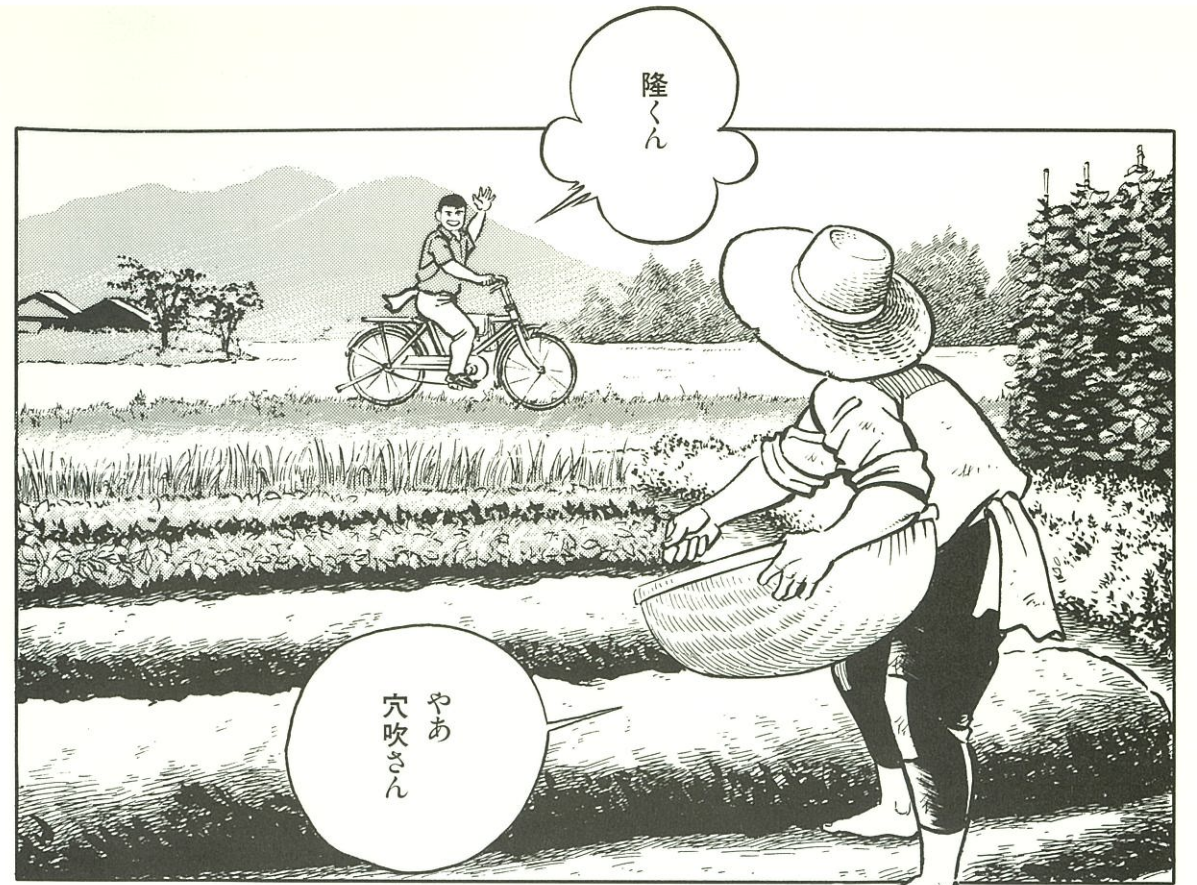


ありや
やりやがった

ビー〜

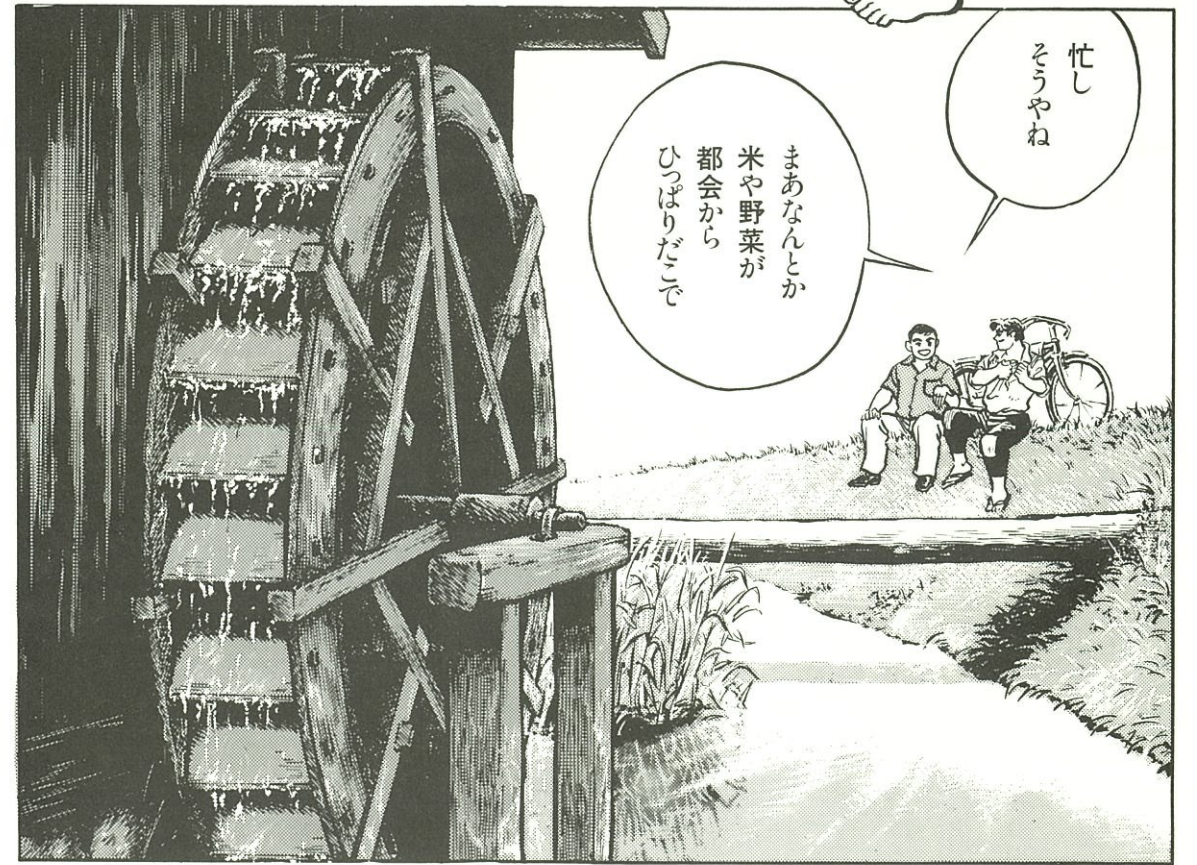
そりや奥さんが
悲しむ
婿が畑仕事に
精出さんようじや
義父さんの
キゲンも
悪かろう

昔気質の義父やから
私をなんとか
百姓にしようと
必死なだけに
無下にも
できません



隆くん

やあ
穴吹さん



忙し
そうやね

まあなんとか
米や野菜が
都会から
ひっぱりだこで



承知の上や
私に代わって現場を
仕切ってくれる人が
欲しい
君や

相変わらず
強引なお人やな

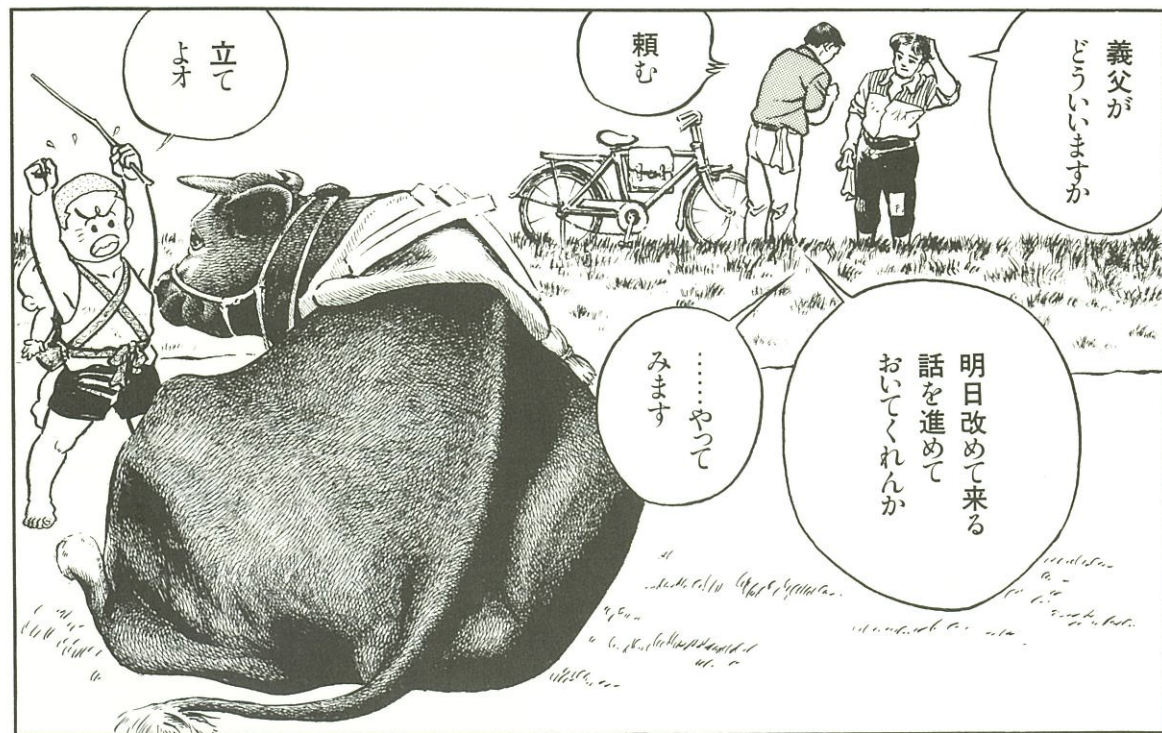


ダメか

ほらすぐ
極端な事を……

本当に建築の
事は

大丈夫
君なら
すぐ
覚えられる



義父が
どういいますか

頼む

立て
よオ

明日改めて来る
話を進めて
おいてくれんか

……やって
みます

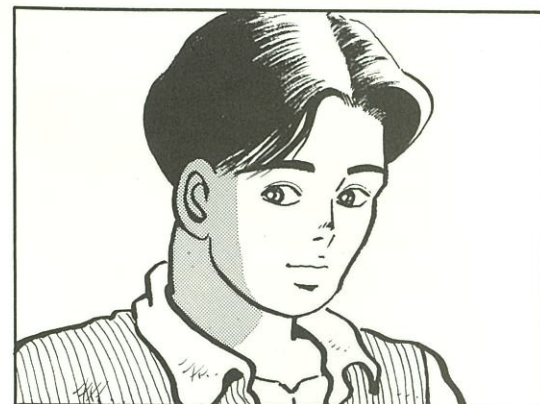


実は隆くん
ワシあんたに

頼みがあつて
来たんや

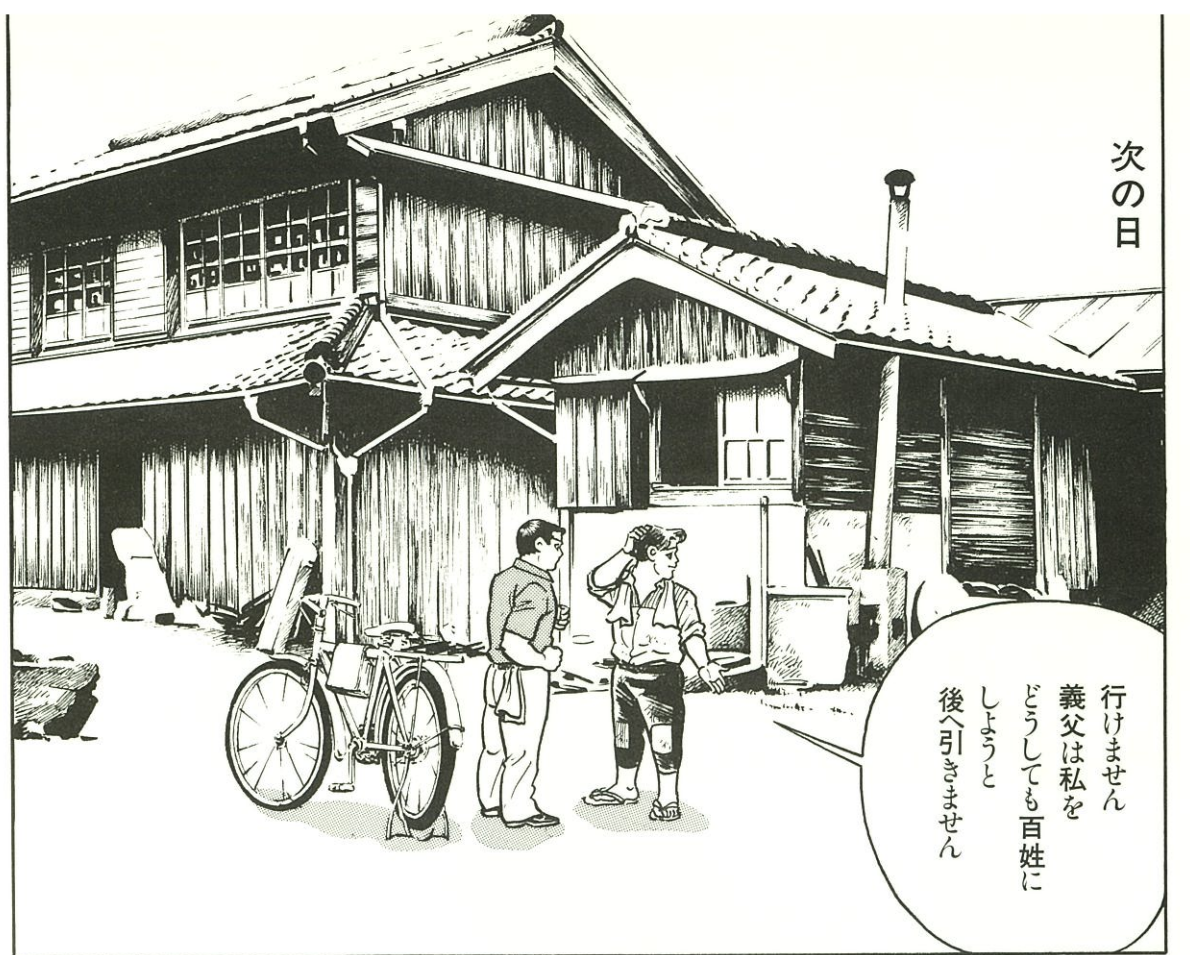


そこが
隆くんの
常識家
温情家としての
長所であり
欠点やなあ



……
私は
建築の事は
素人ですよ

言葉を選べん
気質やから
単刀直入に言わせて
もらうが
穴吹へ来てくれんか



行けません
 義父は私を
 どうしても百姓に
 しようと
 後へ引きません



私も
 後へ引けんのだ

無茶
 ですよ

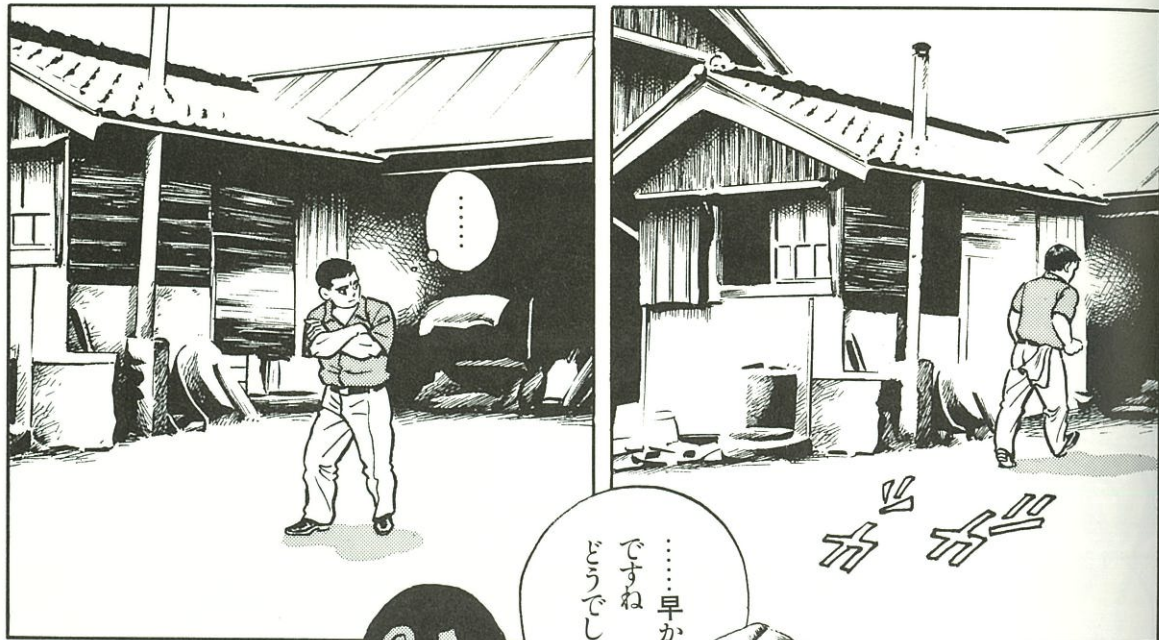


君の力が

義父は納屋に
 います。そこで
 話をしたいそうです

ありがとう
 仕事の
 じやまに
 ならんように
 する

どうしても
 必要
 なんだ



……早かった
 ですね
 どうでしたか



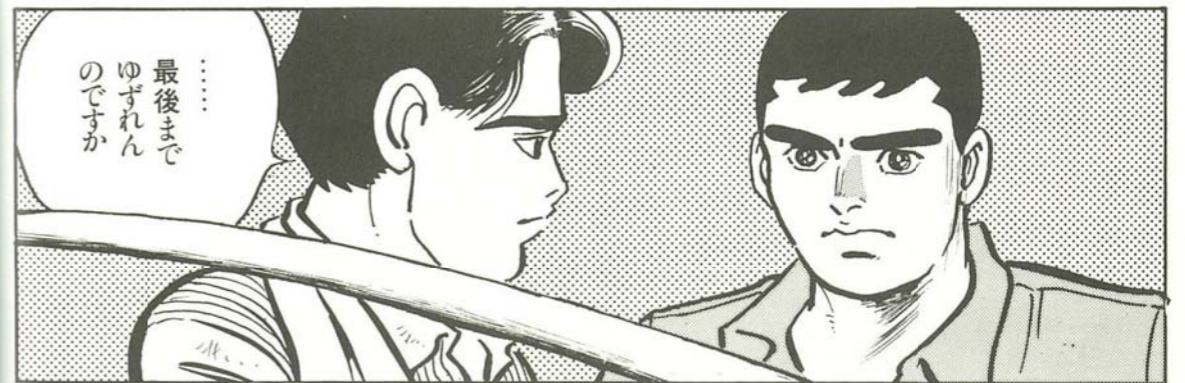
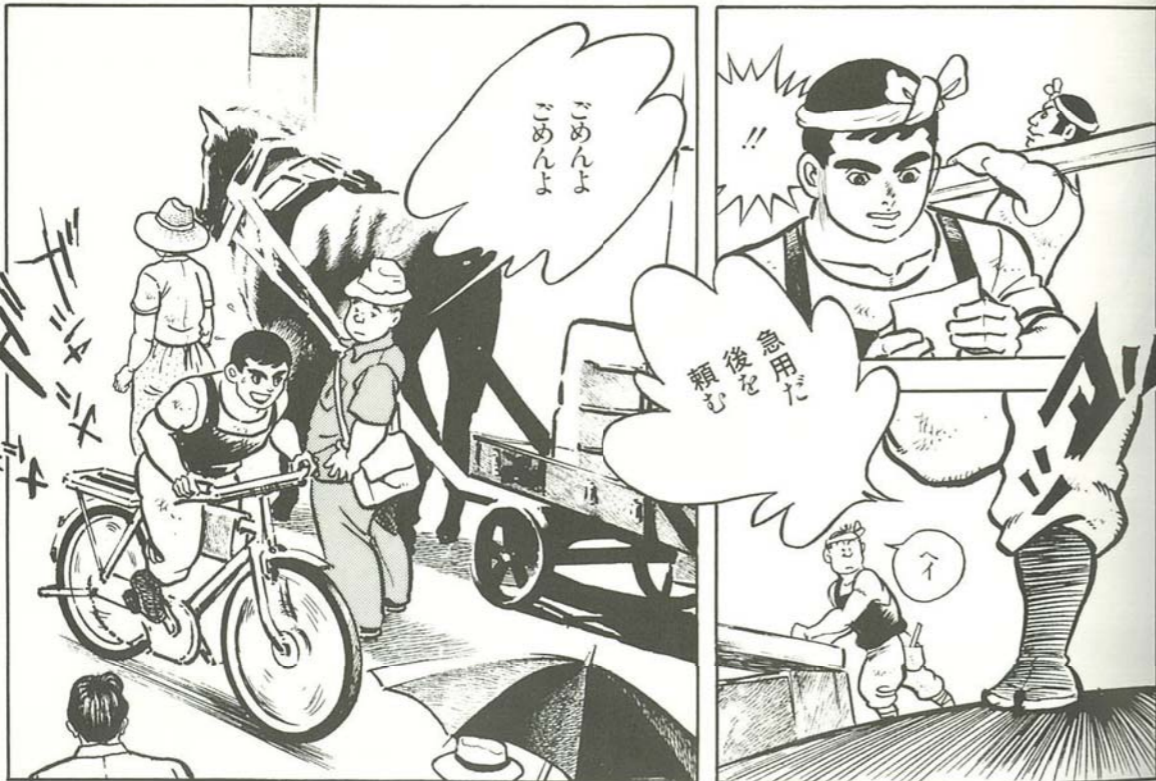
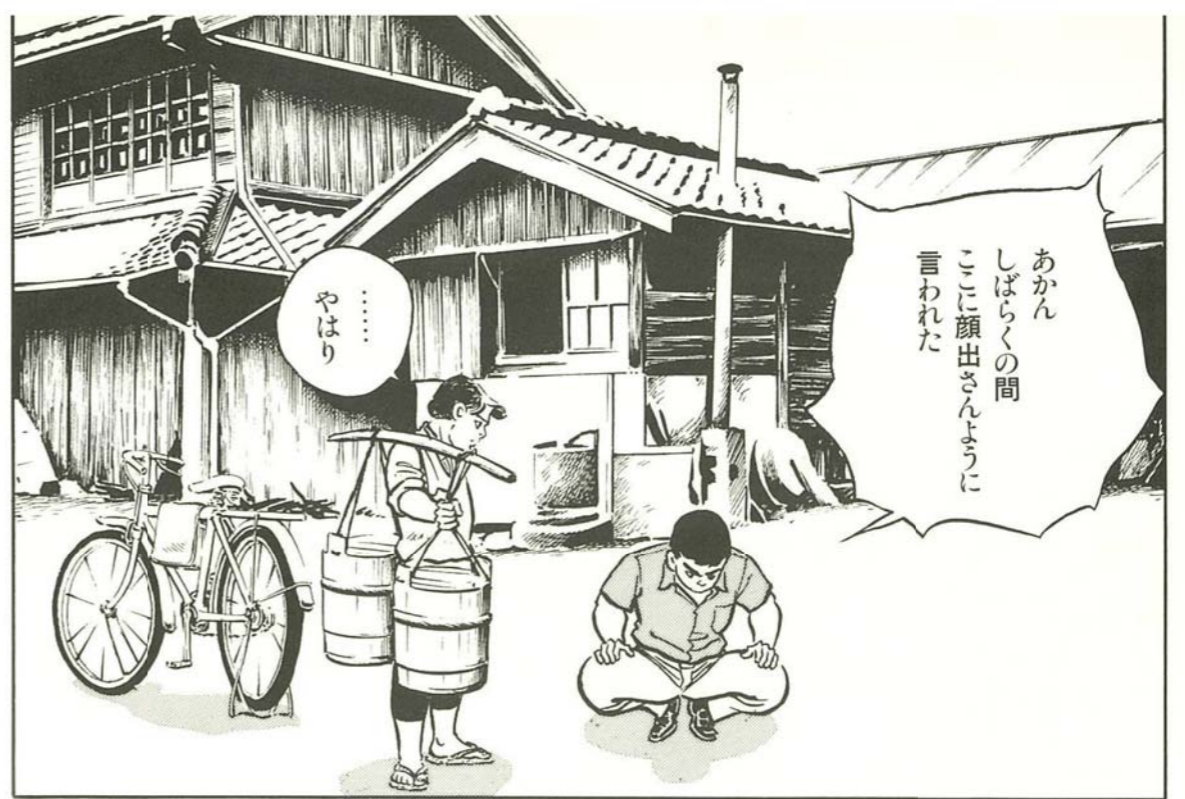
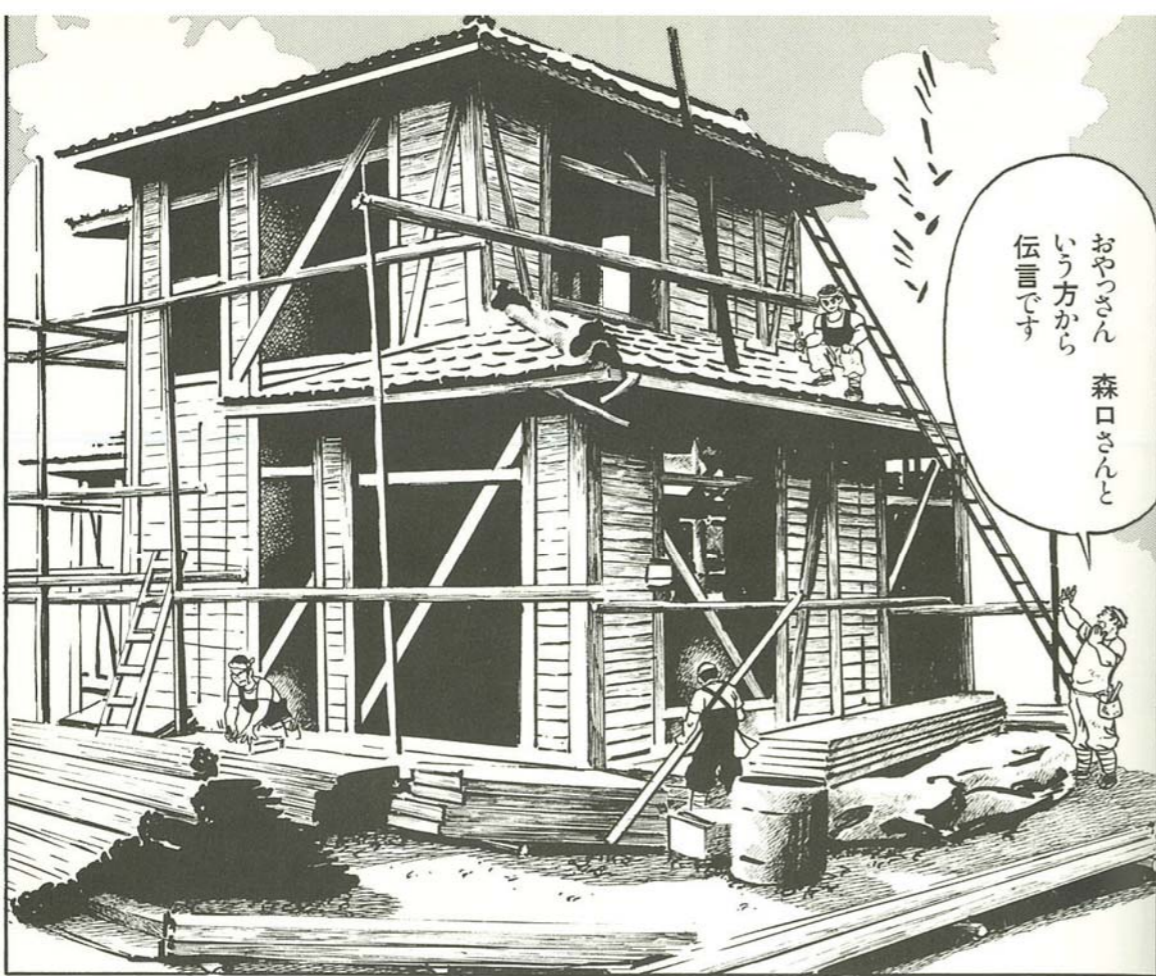
すまんワシを
 義父さんに

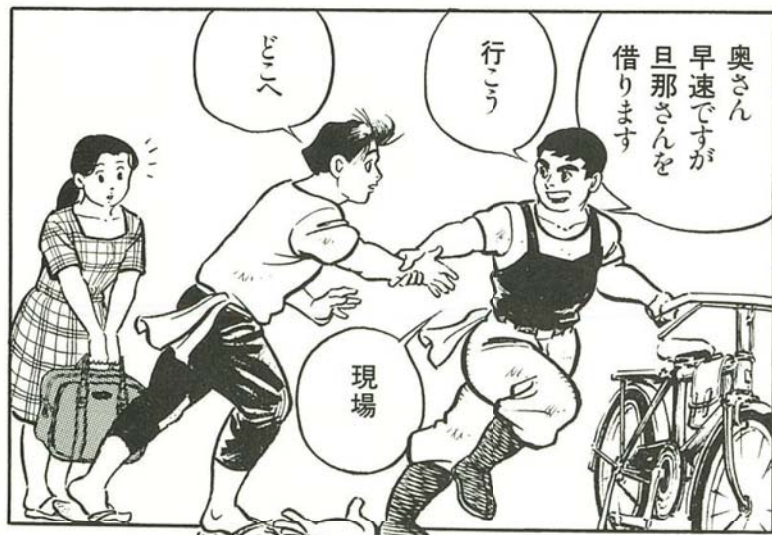
会わせて
 くないか

直接
 交渉ですか

聞いて
 みましよう

頼む





奥さん

行こう

奥さん
早速ですが
旦那さんを
借ります

現場

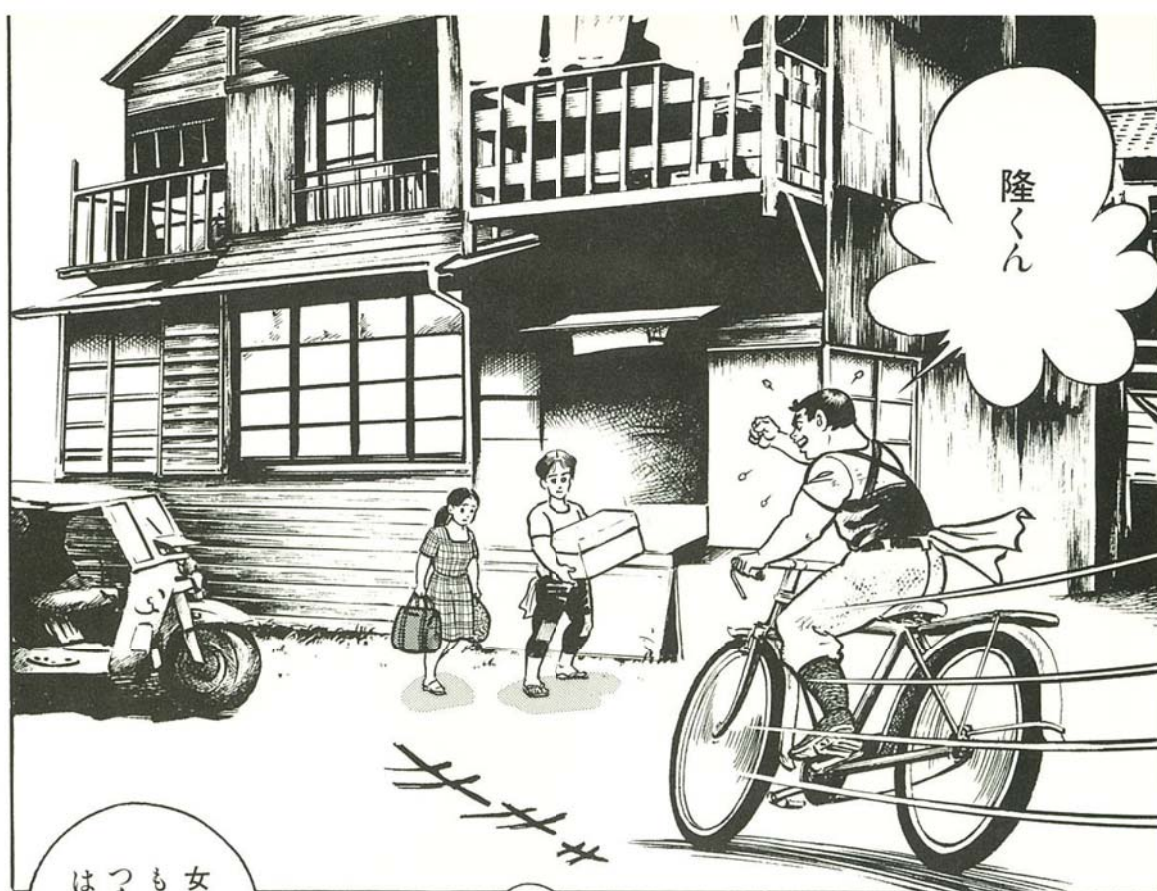


ありがとう



……ハ
穴吹さん一体
どういう
性格
してるんですか

バンザイ
バンザイ



隆くん



女房は
もつと
つらかった
はずだ

つ……
つらかったです



決心して
くれたんだね



うちの人の選んだ
路です

ごちそう
よろしく
お願いします



奥さん

この
償いは
必ずします



この
木材で
もつともつと
人様に喜んで
もらえる
家を建てるんや

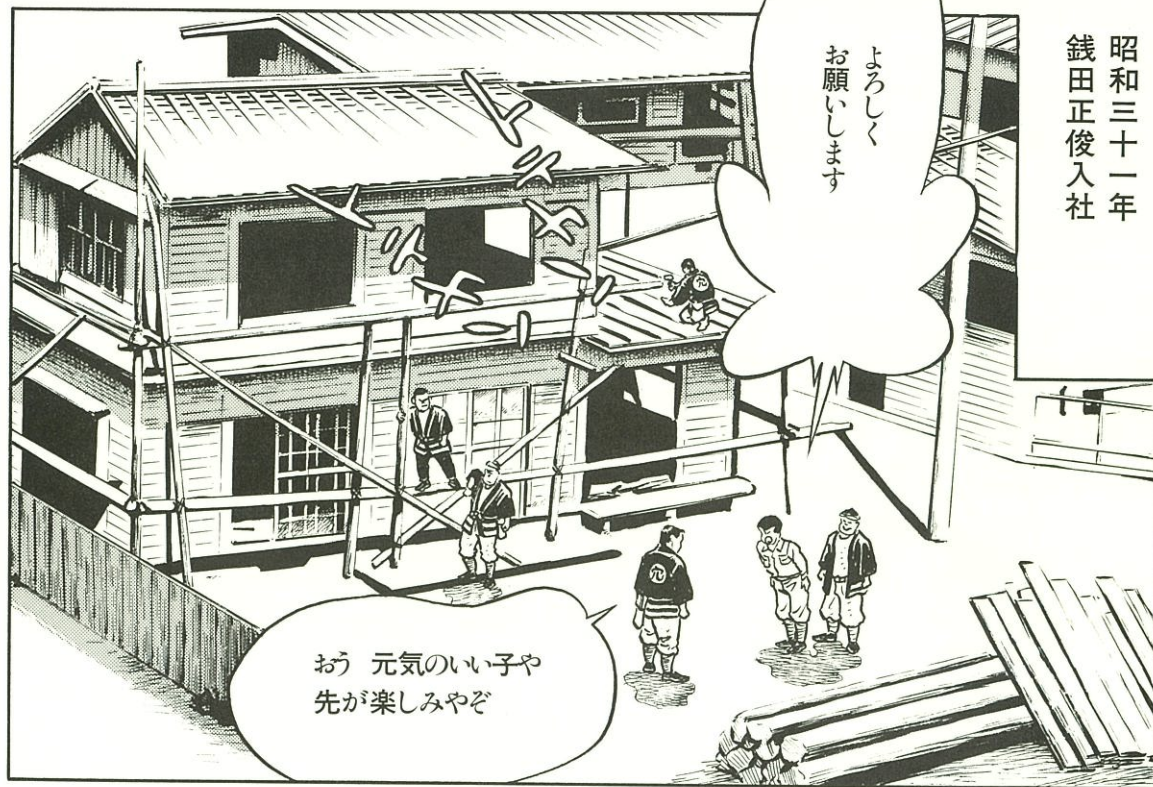
これからや
これからや

ワシは
やるぞーっ



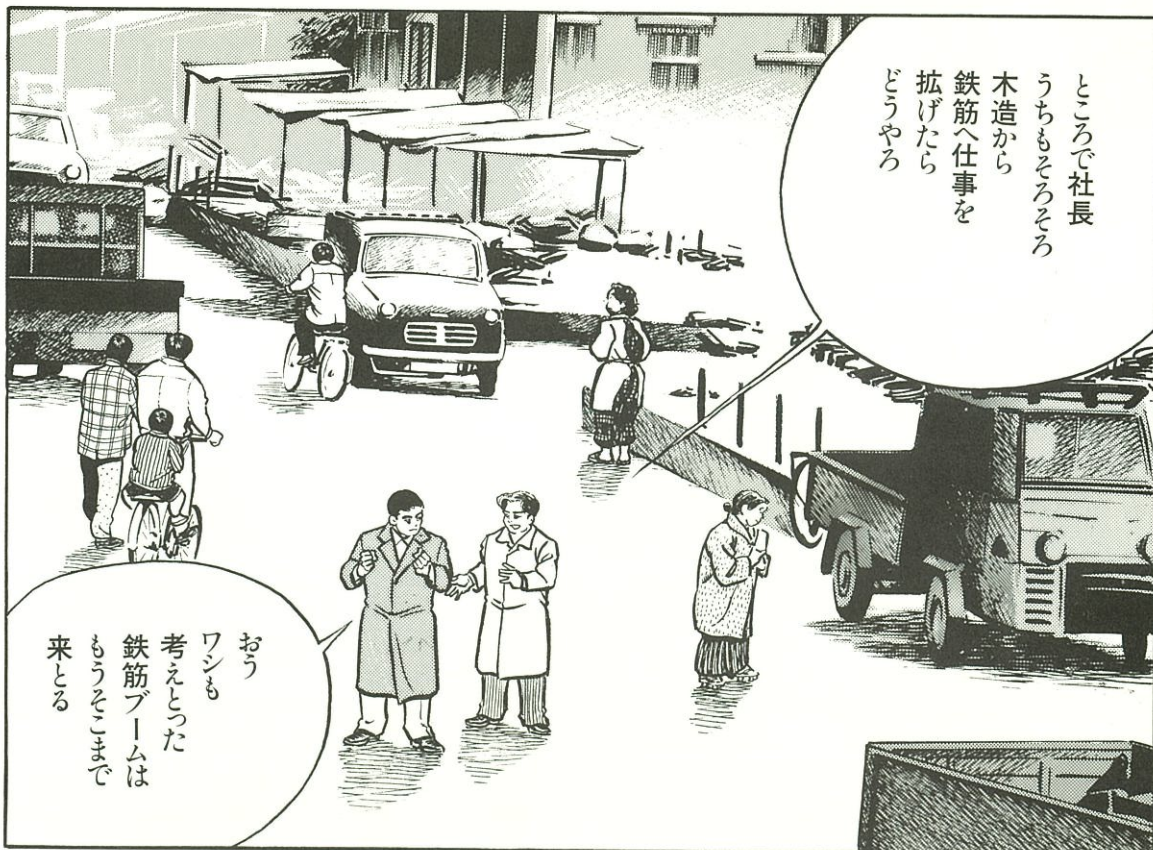
昭和三十一年
日本人が初めて
ヒマラヤの高峰
八千メートルを
超える
マナスル登頂に
成功！
日本中が沸き返った

昭和三十一年
銭田正俊入社



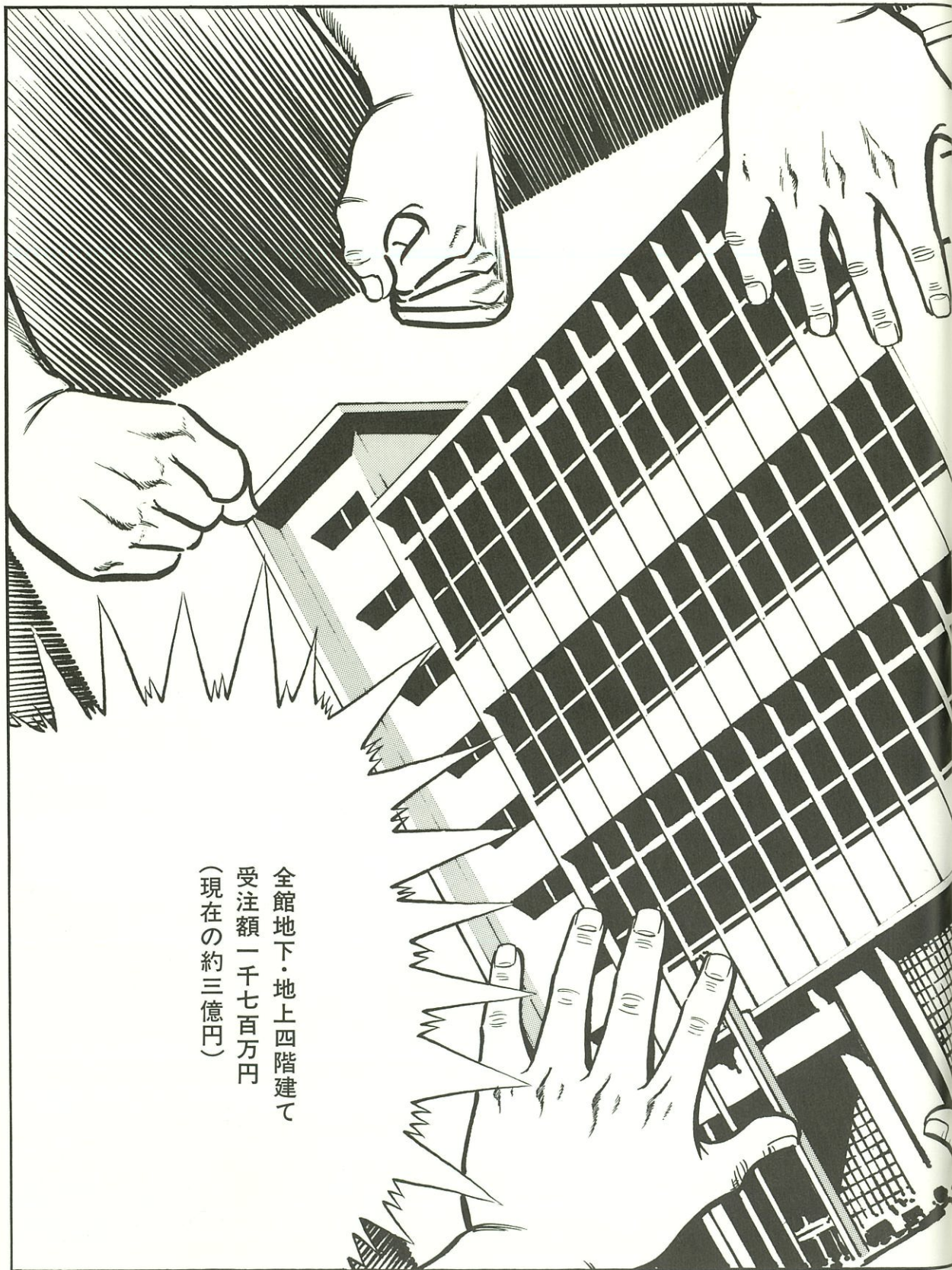
ようしく
お願いします

おう 元気のいい子や
先が楽しみやぞ

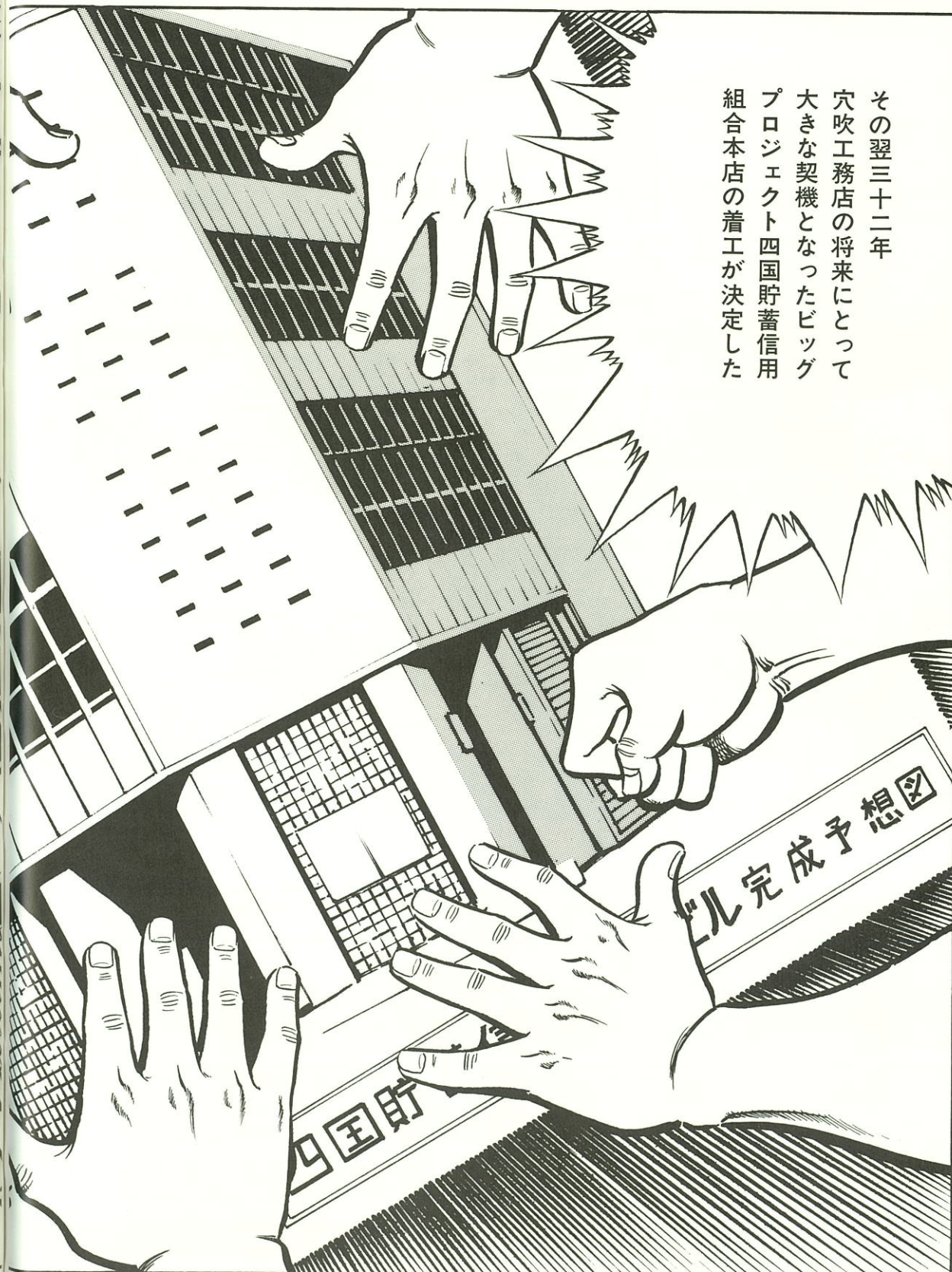


ところで社長
うちもそろそろ
木造から
鉄筋へ仕事を
広げたら
どうやろ

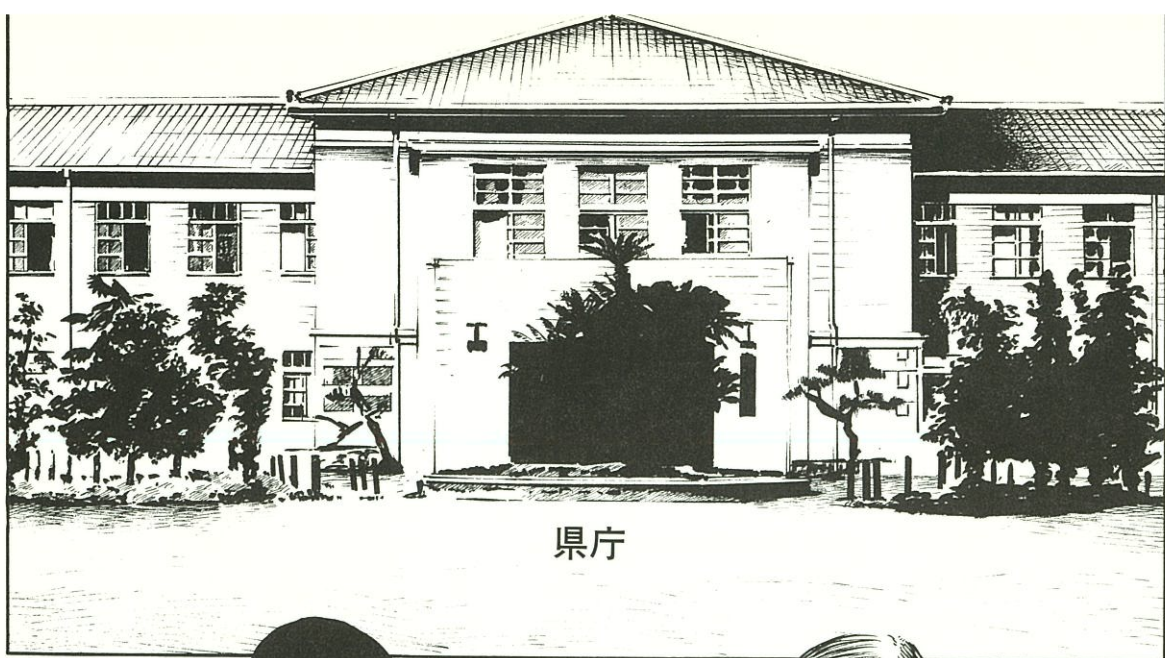
おう
ワンも
考えとつた
鉄筋ブームは
もうそこまで
来とる



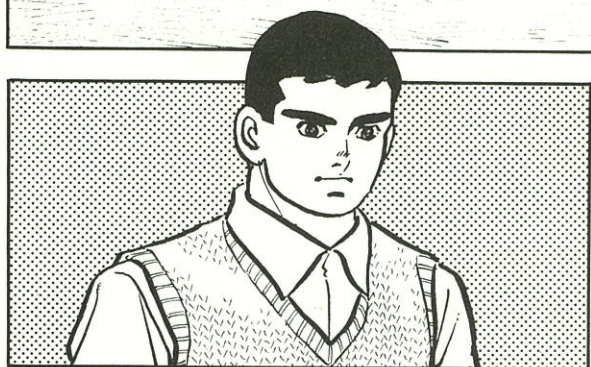
全館地下・地上四階建て
受注額一千七百万円
(現在の約三億円)



その翌三十二年
穴吹工務店の将来にとって
大きな契機となったビッグ
プロジェクト四国貯蓄信用
組合本店の着工が決定した



県庁



穴吹さんよう
どないして
鉄筋
造るんや

おたくは
木造が
主なんやろが



無理もない
私にもどうやって
造っていいか
わからん
しかしみんな
自信を持つとう
我々にできる
はずがない



どうした
銭田くん
震えとるや
ないか

ハ・ハイ 全館地下
地上四階 こんな大仕事
ほんとうにやるのですか

私は体が
震えて
とまりません



ハイ



森口さん
大仕事
ですね

そうだ
穴吹の正念場だ

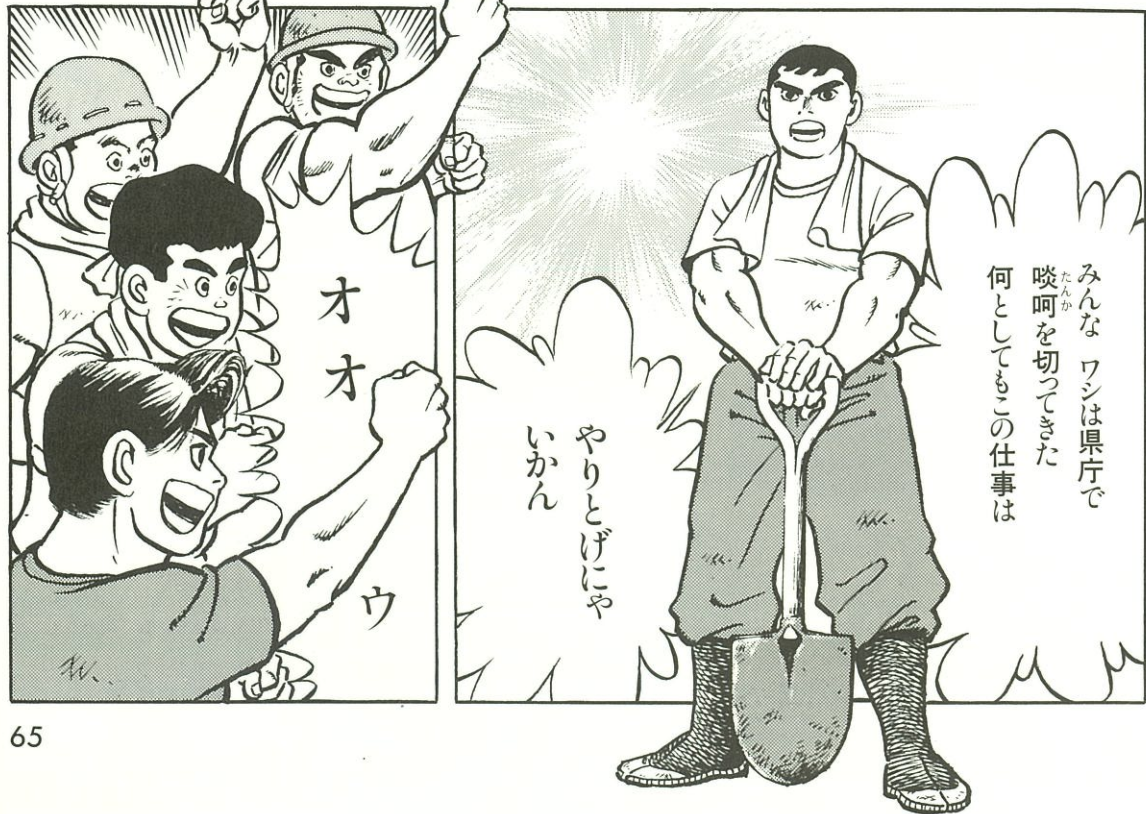


ワシはこれから
県庁へ
行って来る
県でも
半信半疑
みただ



工事の安全を
厳粛に
祈願し

いよいよ
工事が
始まった

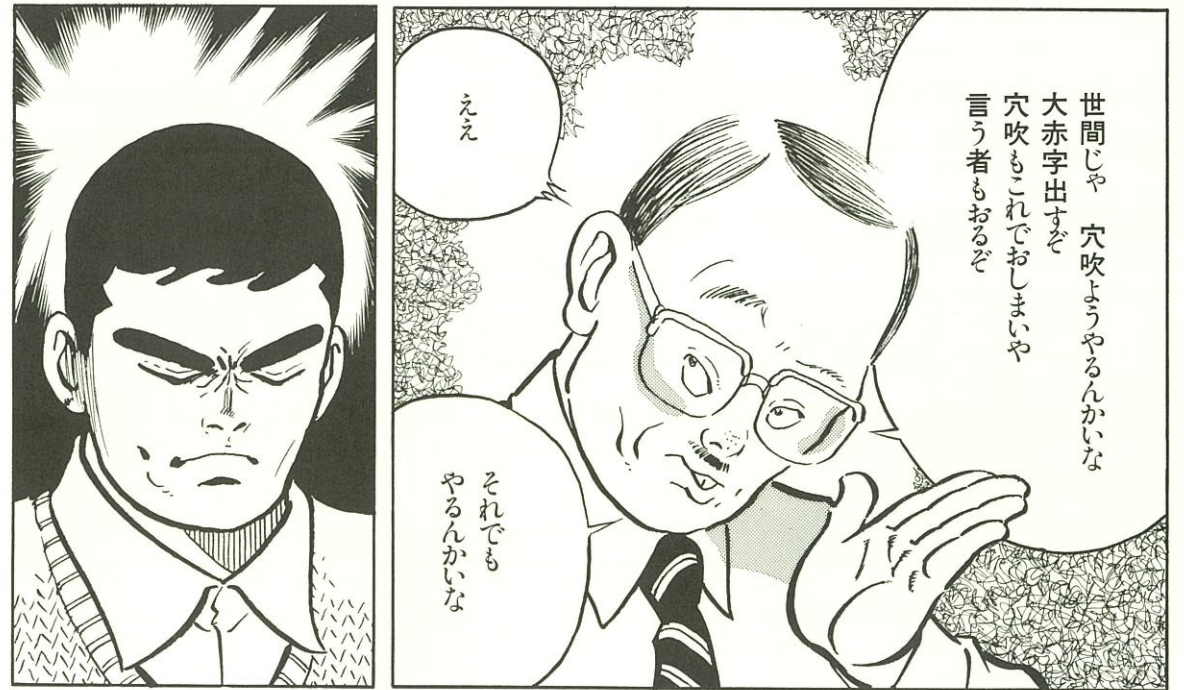


みんなワシは県庁で
啖^{たん}呵^かを切ってきた
何としてもこの仕事は

やりとげこや
いかん

オオ

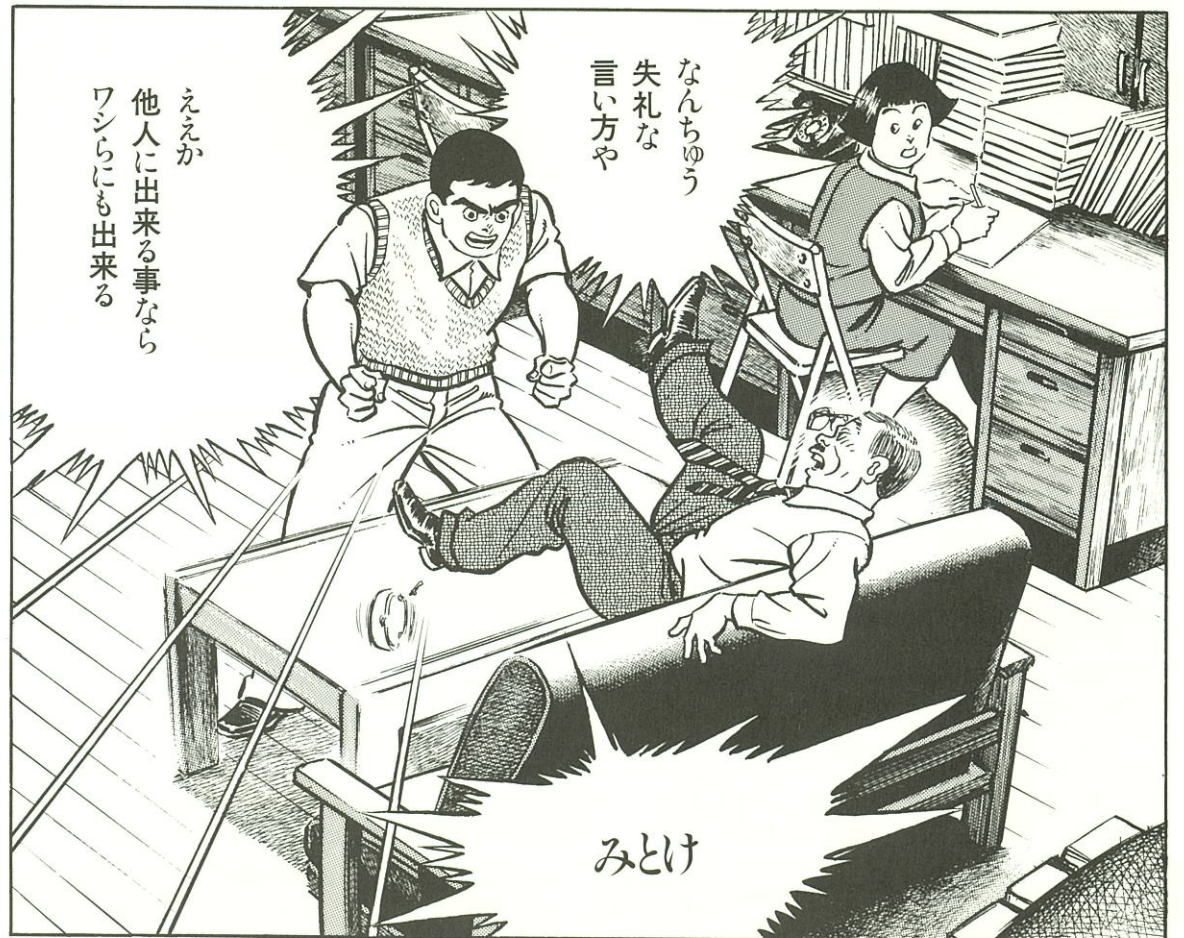
ウ



世間じゃ 穴吹ようやるんかいな
大赤字出すぞ
穴吹もこれでおしまいや
言う者もおるぞ

ええ

それでも
やるんかいな



なんちゅう
失礼な
言い方や

ええか
他人に出来る事なら
ワシらにも出来る

みとけ



ポンプで
粘り強く汲み出す
しかない
尾崎くん
今夜も徹夜に
なるぞ

銭田さん
湧き水が
とまりません



50キロのセメント袋を
決められた板の上に積み上げ

地面の耐力を測定
するんだ



楽しみですね



コンクリート
打ちは
いつからです

県の検査が
終われば入る



楽しくはないぞ

腰が
抜けるぞ

??
どういう
事です



今なら
ブルドーザーや
パワーショベルで
地下掘りを
するのだが

当時は
すべて
手掘りで
あった

わっし

わっし



モーターの音が
でかいな 近所から
文句がでやしないか

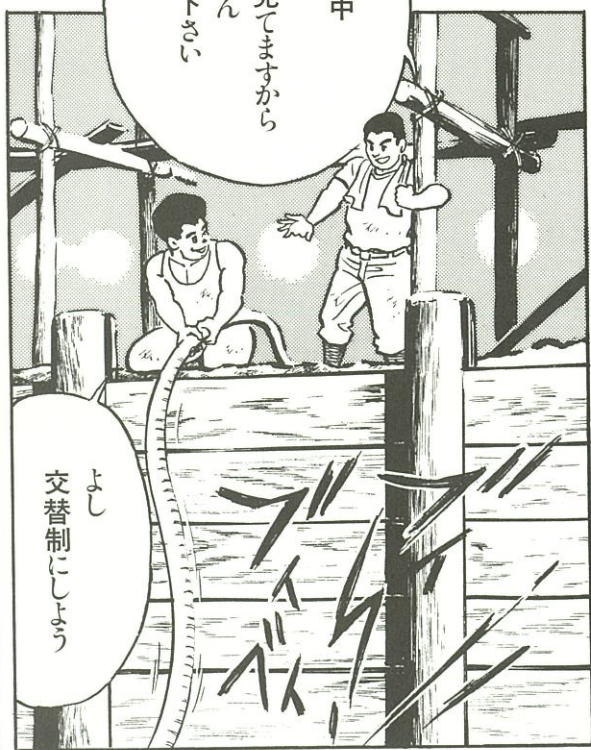
それは大丈夫です
社長が一軒一軒
断つて廻りました
近所の方も協力
してくれるそうです

もう夜中
ですね
ボクが見えますから
銭田さん
休んで下さい

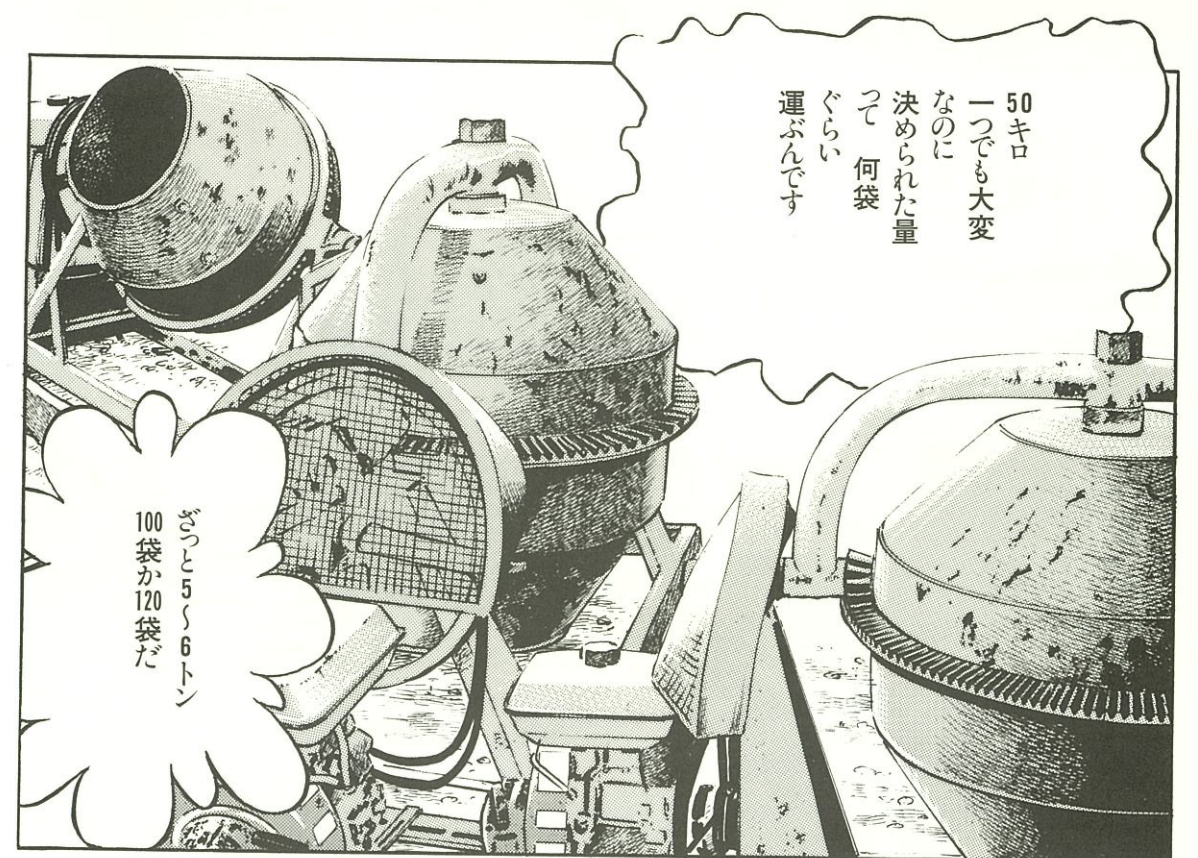


銭田くん 尾崎くん
ご苦労さん
落ちんように気を
つけてくれよ

あ・社長
奥さんも



よし
交替制にしよう



50キロ
一つでも大変
なのに
決められた量
つて 何袋
ぐらい
運ぶんです

50と5と6トン
100袋か120袋だ



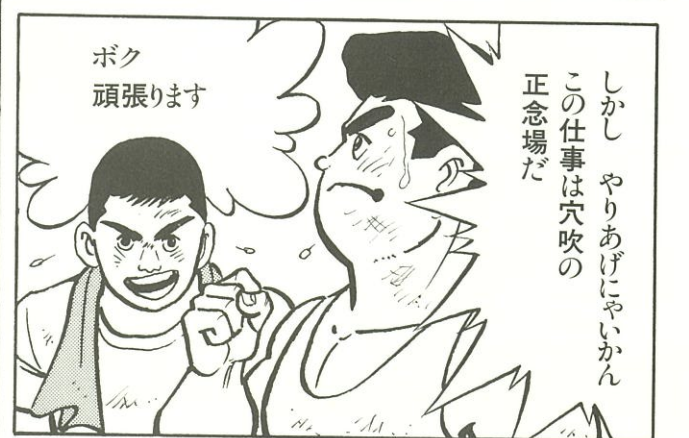
水抜きは
昼夜
ぶつとおしで
行われた

いち
この
さん



次の日は
小便に行くのにも
つらいぞ

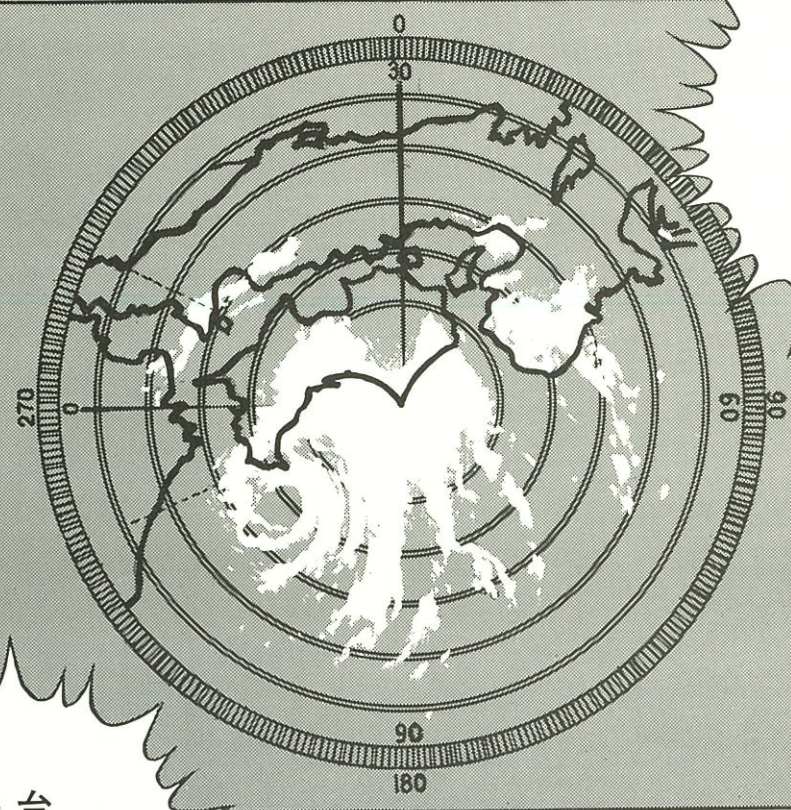
ゲエ
そんなに



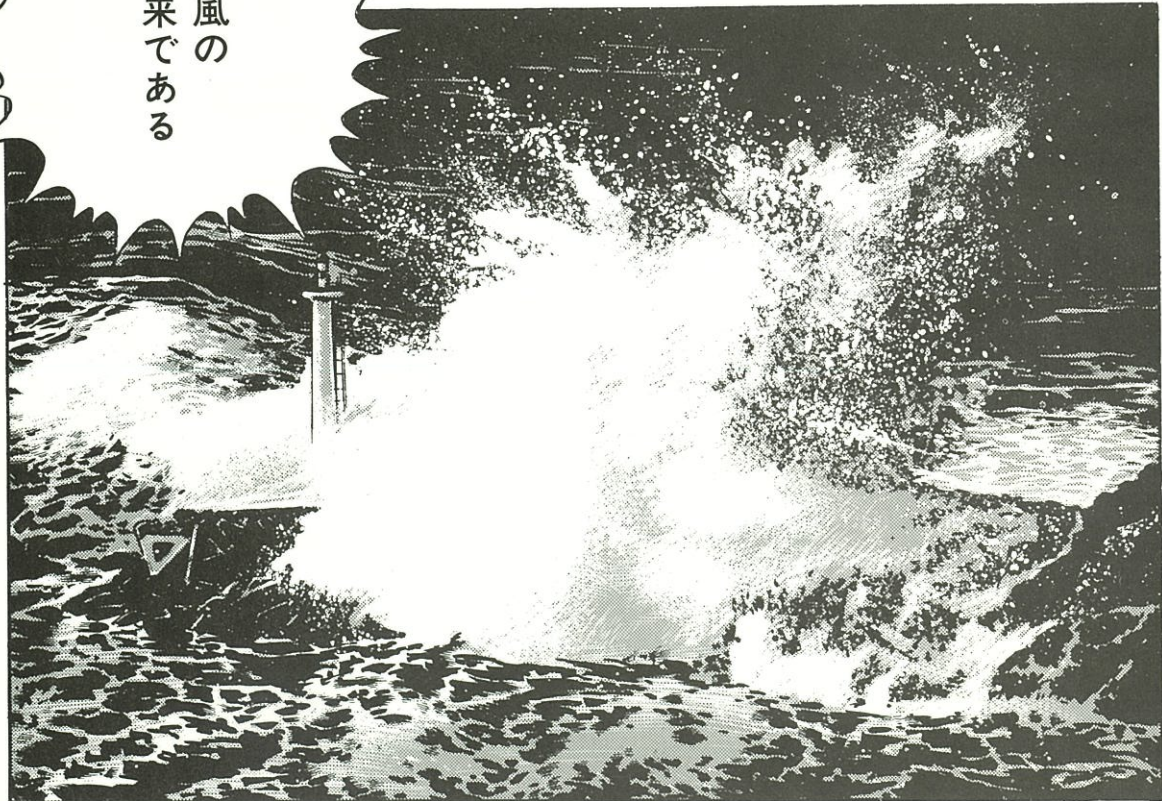
ボク
頑張ります

しかし やりあげにやいかん
この仕事は穴吹の
正念場だ

ある日 とんでも
ない事が
起こった



台風の
襲来である



コンクリート打ちが始まり
作業は順調に進んでいた
だが!!

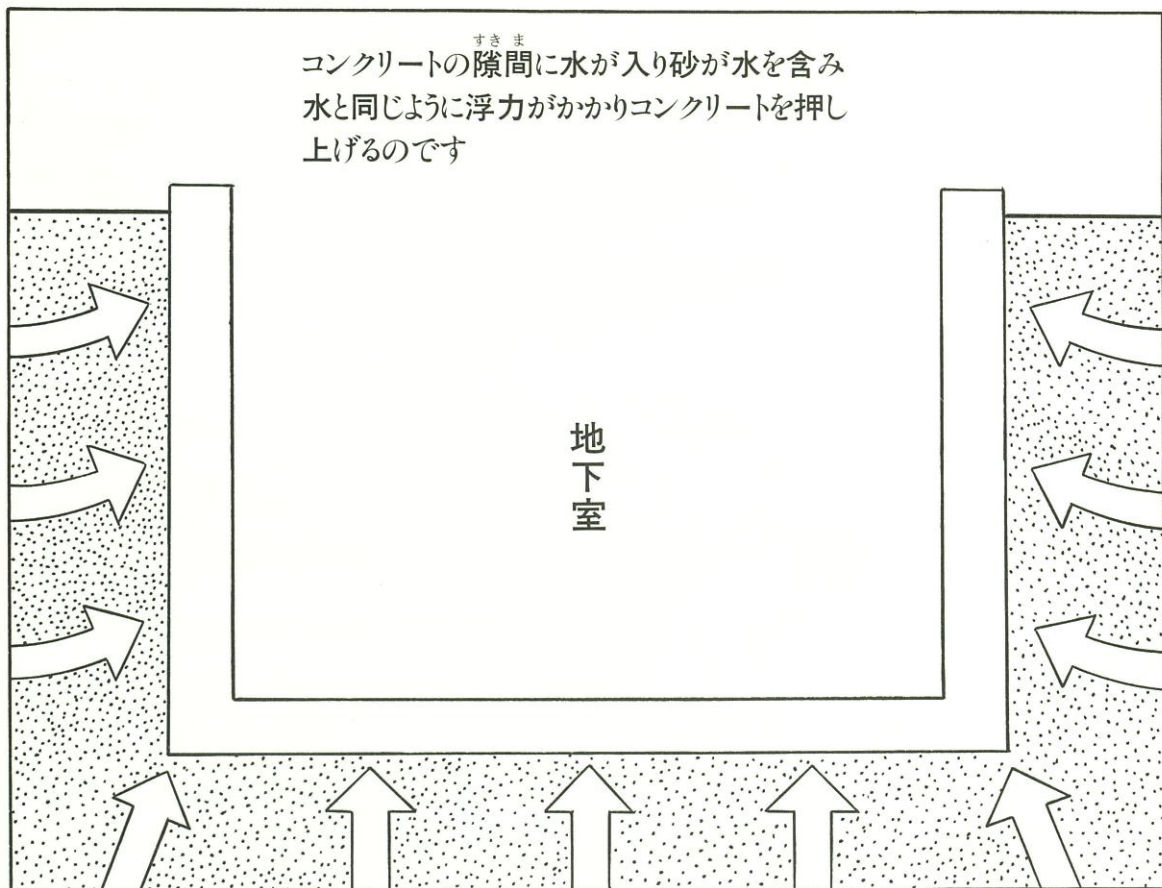






!!いかん もしかしたら
地下コンクリートが
浮かぶかもしれない

なんだと
森口くん
それはどういう
意味だ



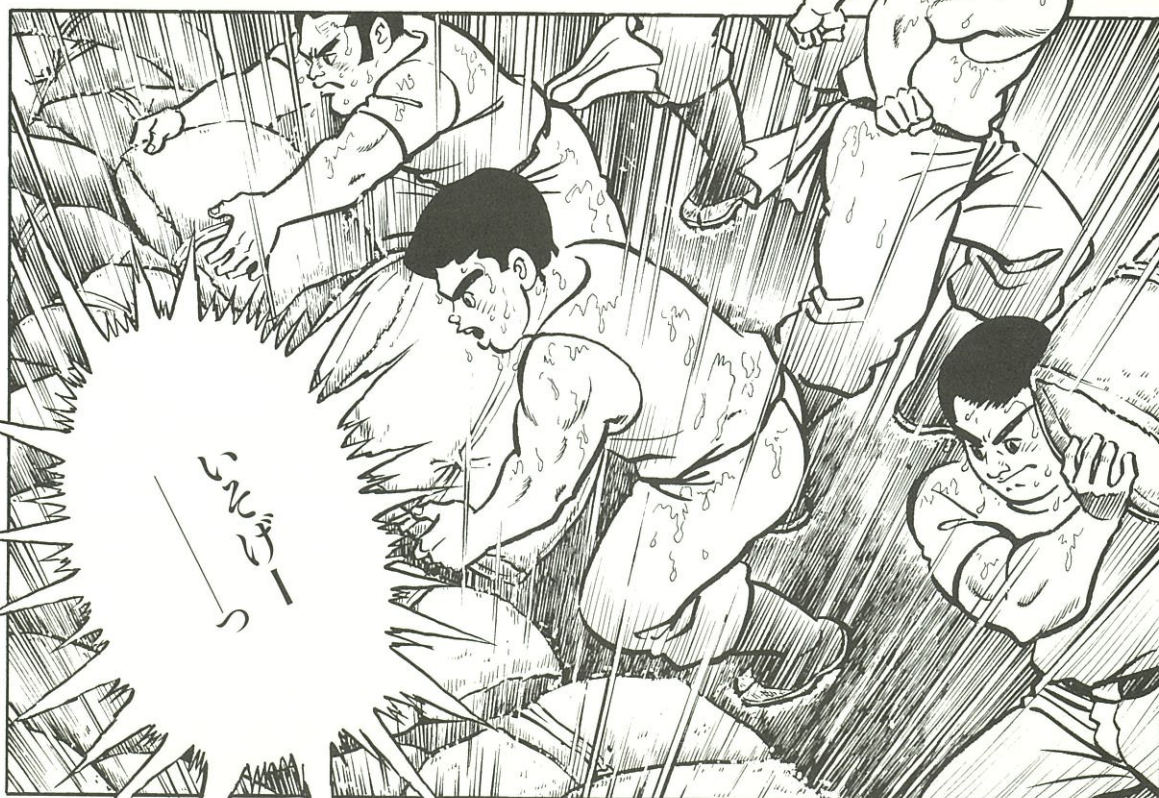
コンクリートの隙間すきまに水が入り砂が水を含み
水と同じように浮力がかかりコンクリートを押し
上げるのです

地下室



地下に
水をいれるなーっ

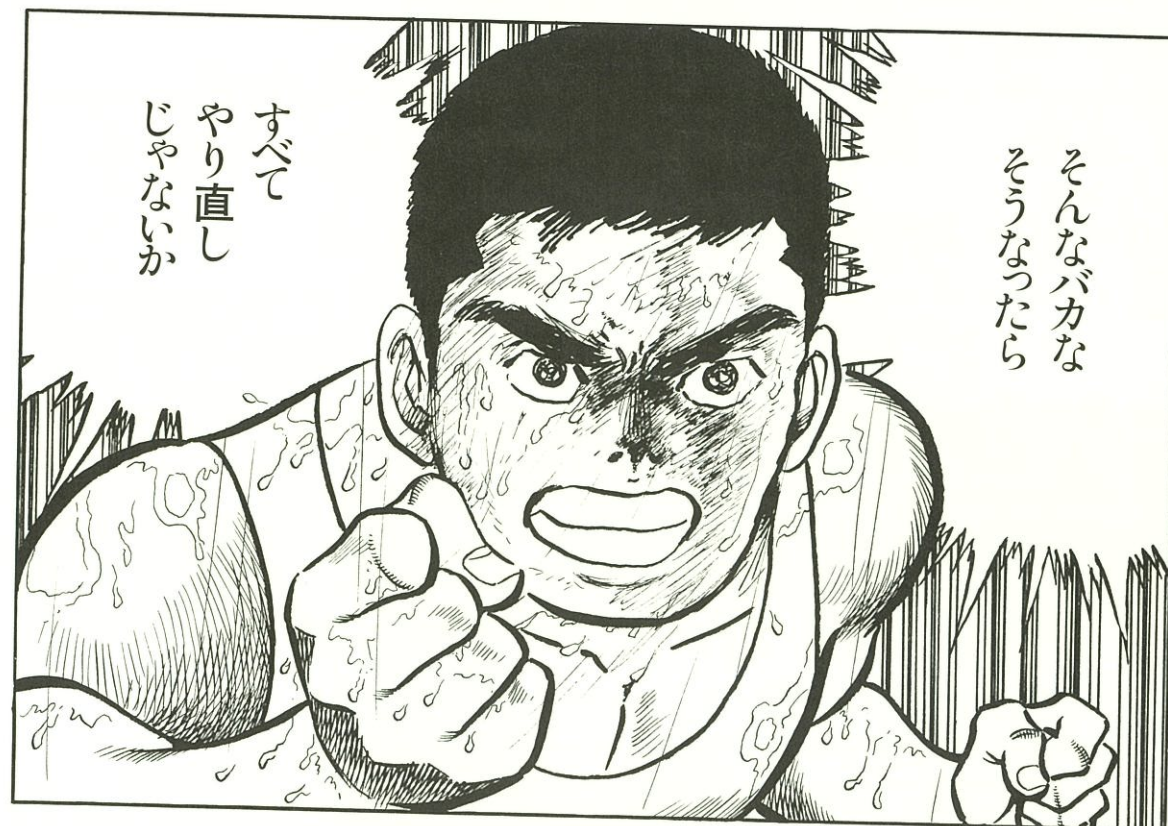
ど
の
う
を
積
み
上
げ
ろ



さー
ー



道路の冠水が
どんどん増えています



そんなバカな
そうだったら

すべて
やり直し
じゃないか



みんなの苦労が
無駄になる

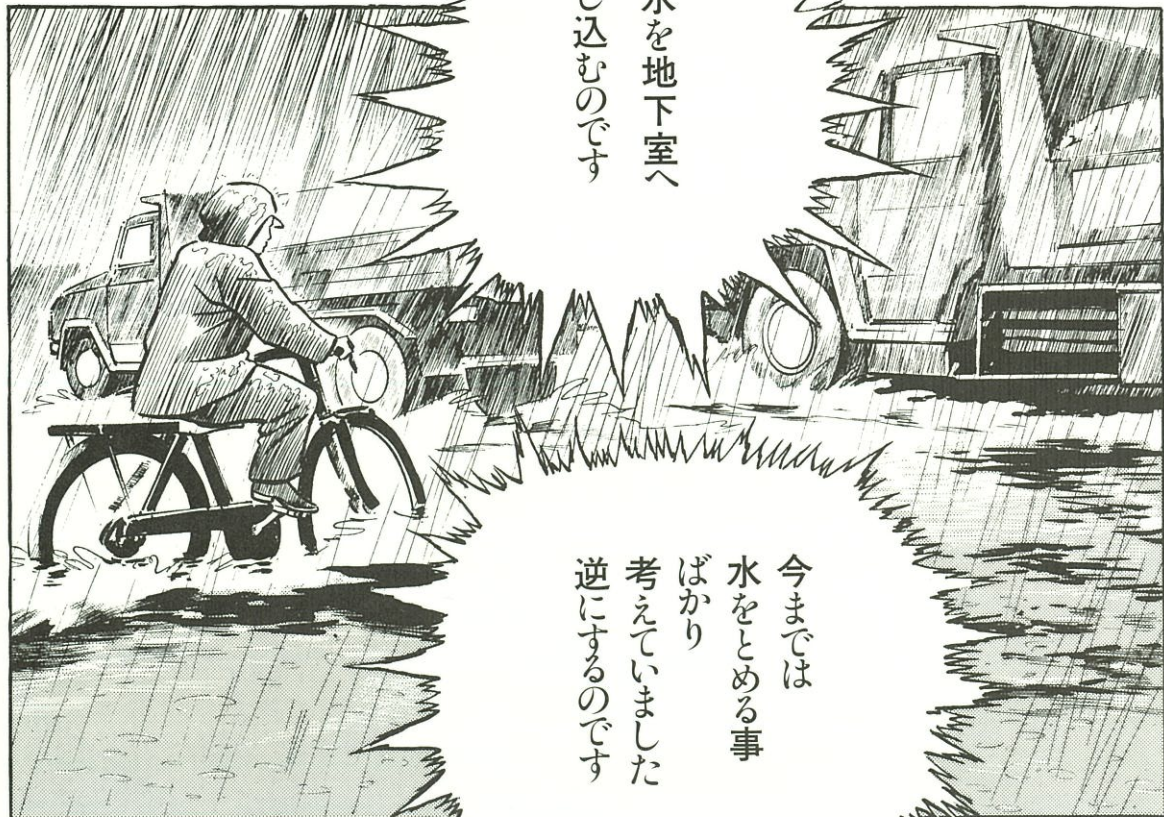
とめにやいかん
何かとめる方法は
ないのか



事だ
どうしよう



そうだ水だ
水を逆に
利用するんだ

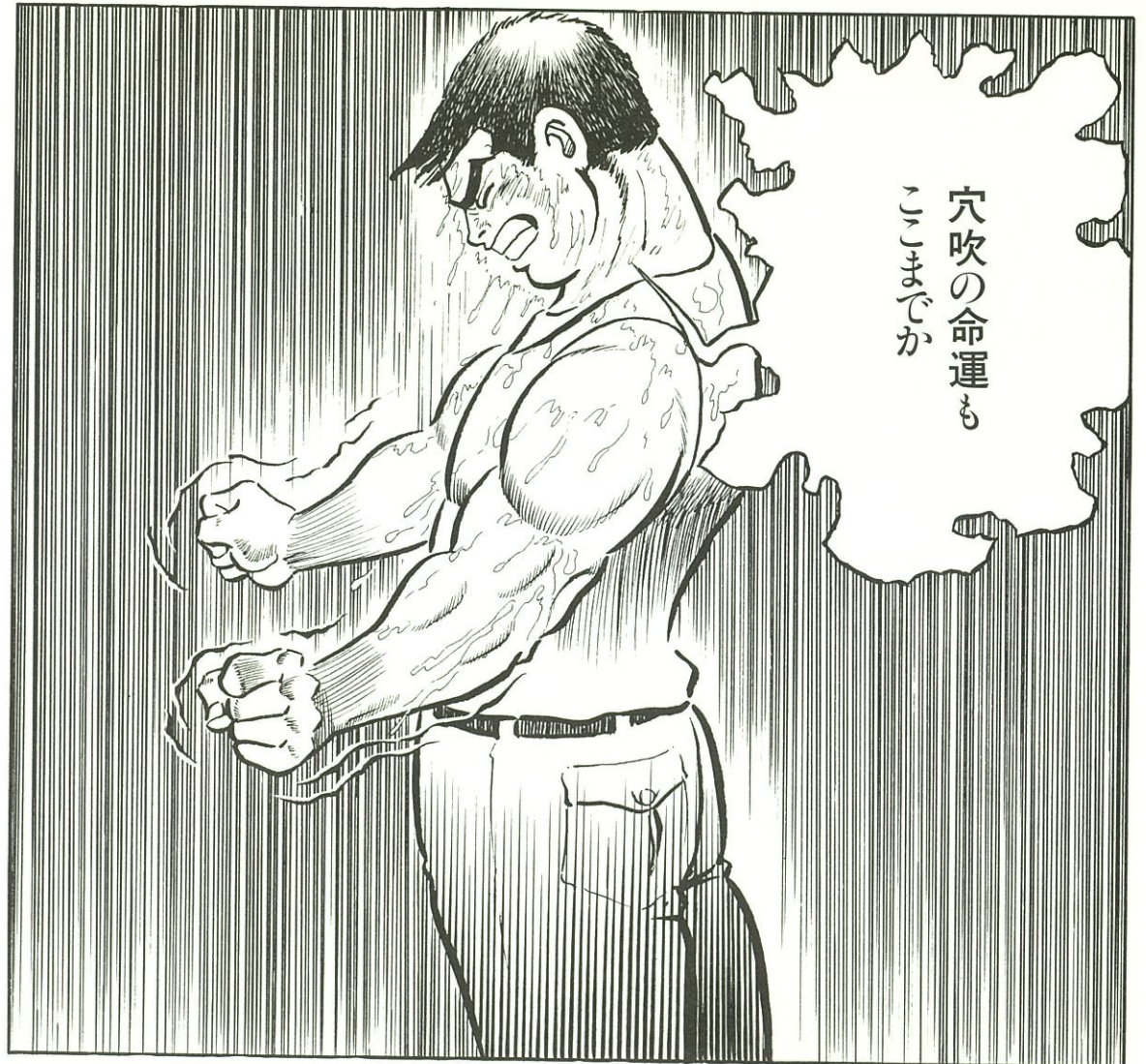


雨水を地下室へ
流し込むのです

今までは
水をとめる事
ばかり
考えていました
逆にするのです



ムウ



穴吹の命運も
ここまじか



オー

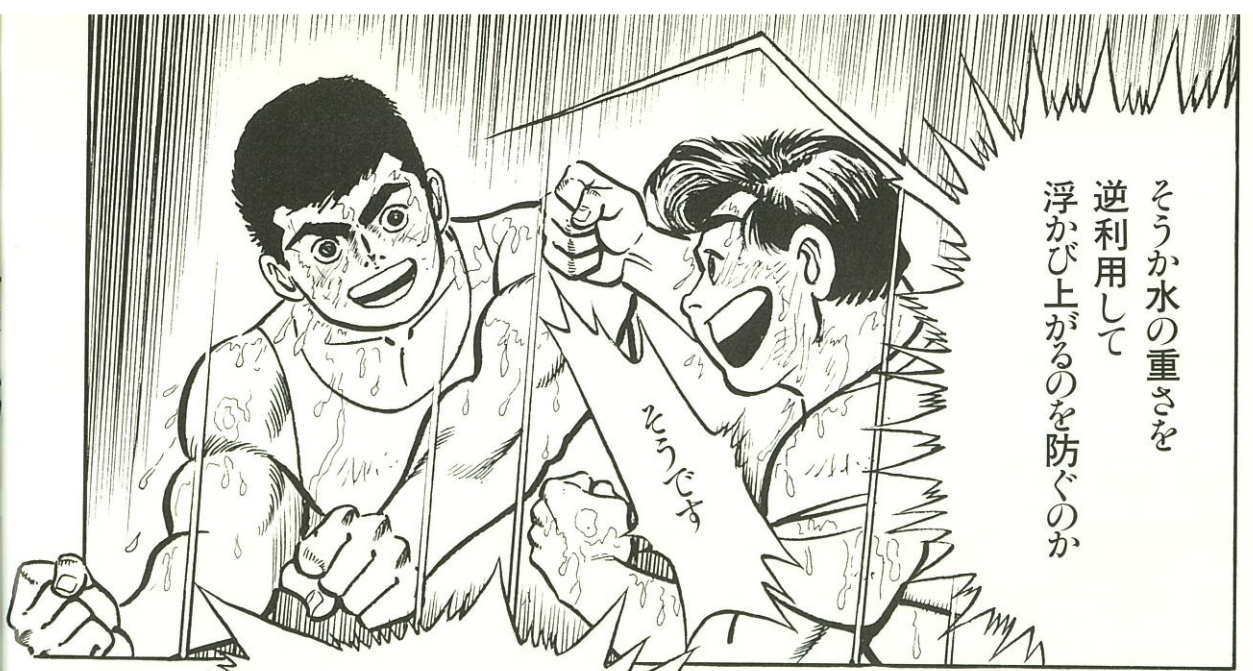
頑張れ

よし
向こうへ廻れ



よし
流れが
変わったぞ

もう
少しだ
頑張れ



そうか水の重さを
逆利用して
浮かび上がるのを防ぐのか

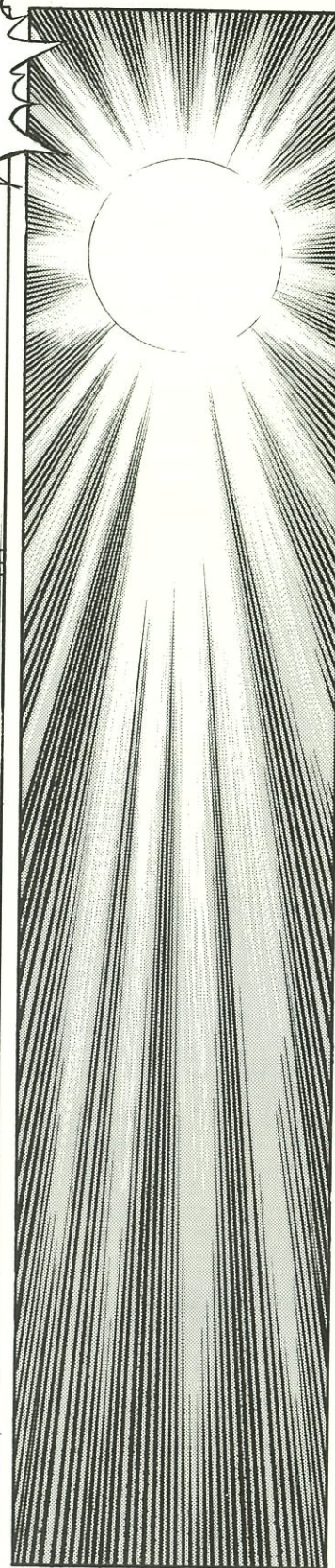


積み直した
急げ

どううを利用して
道路の冠水を
地下室へ
引き込むのだ

オオウ

ビルは
完成した



赤字も大きかったが
それよりも
穴吹工務店は
もっと大きなものを
手にした

四国貯蓄信用組合



あつた

信用で

それは

